

工事店様用

余剰買取向け

YRSWHB (固定回線用)
YRS3GB (3G回線セット)
エコめがね
RS 余剰 10年プラン

〈パソコン接続タイプ〉

[太陽光発電 遠隔モニタリングサービス]

施工・取扱説明書 Ver1.0

この施工・取扱説明書は、
RS 余剰 10年プラン (パソコン接続タイプ/固定回線用)
RS 余剰 10年プラン (パソコン接続タイプ/3G回線セット)
の施工・取扱方法について、説明しています。

はじめにこの施工・取扱説明書をよくお読みになり、
十分ご理解のうえ、正しく安全にご使用ください。

- 施工に際して記載内容を守ってください。
- 施工は電気の知識を有する専門家が行ってください。

目次

安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意	4
施工・設定の流れ	9
本製品について	11

施工手順

部材・機器の準備	17
システムの配線について	23
計測ユニットの設置	24
パワーコンディショナの配線・設定	27
主幹用電流センサの設置	32
外部発電機用電流センサ（別売）の設置	34
電圧検知用ケーブルの配線	36
設置／配線完了後の作業	38
フロントカバーの取り付け	39
Wi-Fi ルータの設置(固定回線用の場合)	40
3G ルータの設置(3G 回線セットの場合)	41
計測ユニットの起動	44
初期設定	47
パワーコンディショナの動作確認	56

取扱方法

表示部の見方	58
電波強度を確認する	59
疎通確認を実施する	60
パワーコンディショナを操作する	62
瞬時値確認を実施する	65
有線接続の設定	66
無線接続の設定(固定回線用)	68

目次 (つづき)

保守


パワーコンディショナを交換・追加する	69
電流センサ、ケーブルを交換する	72
計測ユニットを交換する	75
ルータを交換する	81


その他

メニュー遷移	82
エラーコード一覧	85

安全上のご注意 / 安全上の要点 / 使用上の注意





誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害を、次のように区分して説明しています。

 警告	正しい取扱いをしなければ、この危険のために、軽傷・中程度の傷害を負ったり、万一の場合には重傷や死亡に至るおそれがあります。
---	---








 注意	正しい取扱いをしなければ、この危険のために、ときに軽傷・中程度の傷害を負ったり、あるいは物的損害※を受けるおそれがあります。
---	--

※ 物的損害とは、製品の故障、誤動作などでお客様の設備や財物に損害を与えることを示します。

お守りいただく内容を次の図記号で説明します。



	●一般的な禁止 特定しない一般的な禁止の通告
	●分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止の通告
	●一般的な指示 特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示
	●感電注意 特定の条件において、感電の可能性を注意する通告

●計測ユニット関連 (P.4～7)








 警告	
	計測ユニットは、 幼児の手の届かないところに設置して下さい。 感電による傷害が起こる可能性があります。
	計測ユニットに 発火物を近づけたり、可燃性ガスを含むスプレーを吹き付けしないで下さい。 発煙・発火・火災・爆発のおそれがあります。
	計測ユニットに ぬれた手で触れないでください。 感電による傷害や機器故障のおそれがあります。
	計測ユニットを 分解・改造しないでください。 感電による傷害や発煙・発火・火災が起こるおそれがあります。電波法でも禁止されています。
	計測ユニットを配線する際は、計測ユニットの電源（計測ユニット用ブレーカ）を 必ずオフにしてください。 感電による傷害が起こるおそれがあります。
	計測ユニットの電圧検知用ケーブルには、 Φ2.0 銅単線 (VVF) を使用してください。 焼損のおそれがあります。

安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

警告(つづき)

	計測ユニットの設置時には計測ユニット用の個別ブレーカ（計測ユニット用ブレーカ）を使用してください。 計測ユニットの故障が発生した場合、焼損のおそれがあります。
	電源を入れる前に、接続が正しいことを確認してください。 誤接続があると、正しく計測ができない場合や、計測ユニット、スマートメータ等が破損するおそれがあります。

注意

	計測ユニットの設置は、電気設備技術基準、内線規程に従い、第1種または第2種電気工士が行ってください。 感電による傷害が起こるおそれがあります。
	薄い木材や木材でない材質の壁に計測ユニットを設置する場合は、市販のボードアンカーを使って、壁面にしっかりと固定してください。 落下により怪我をするおそれがあります。
	強酸、有機溶剤、火の近くなどの環境下では使用しないでください。 故障の原因となるおそれがあります。
	計測ユニットを、次のような場所には設置しないでください。 焼損のおそれがあります。 ● 野外や軒下等の雨水があたる場所 ● 洗面所、脱衣所、作業場、調理場などの湯気の当たる場所、もしくは湿度が25 ~ 85%RH以外のところ
	計測ユニットを振動、衝撃の影響が大きいところや、落下するおそれがあるところに設置しないでください。 落下により怪我をするおそれがあります。
	ノックアウト加工をする際は、突起やバリをやすりなどで確実に除去してください。 配線を傷つけたり、けがの原因となります。
	計測ユニットの端子ねじは、 $1.4 \pm 0.2N \cdot m$ で確実に締め付けてください。 接触不良による焼損、および、過剰トルクによる端子台破損のおそれがあります。

安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

安全上の要点

以下に示す項目は、安全を確保する上で必要なことですので、必ずお守りください。

- 計測ユニットを廃棄する場合は、地方自治体の条例または規則等に従ってください。
- 計測ユニットは、状態表示ランプを下方向にして垂直な壁にねじで確実に固定してください。
- 計測ユニットの端子台への配線は、同梱の圧着端子を使用してください。
- 計測ユニットに発煙、発熱、その他の異常を感じた場合は、計測ユニット用ブレーカをオフにしてください。
- 主幹用電流センサの定格は100Aです。20kW (100A × 100V × 2) まで計測できます。
- 外部発電機用電流センサの定格は100Aです。20kW (100A × 100V × 2) まで計測できます。
- 計測ユニットを押入や階段下など、通風を妨げるような場所に設置しないでください。
- 振動、衝撃の影響が大きいところには保管(輸送を含む)しないでください。

使用上の注意

- 計測ユニットは静電気によって故障、破損することがあります。計測ユニットに触れる前に身近な金属に手を触れるなどして身体の静電気を取り除くようにしてください。
- 計測ユニット及び主幹用電流センサは計量法に定める指定機関が行う検定に合格した特定計量器ではありませんので、電力量の証明には使用できません。目安としてご利用ください。
なお、発電量などの数値の表示精度はパワーコンディショナ(PCS)および主幹用電流センサの性能に依存します。
- 計測ユニットは以下のパワーコンディショナ以外に接続しないでください。
最大接続台数は6台になります。(ただし同一シリーズに限る)
<オムロン製>
 - KP□K / KP□K2 シリーズ
 - KP□M シリーズ
(KP□M* *KCシリーズは対象外になります。)
 - KP□R シリーズ
(末尾に-Aのある形式が出力制御対応パワーコンディショナになります。)
- ケーブルを強く引っ張らないでください。
- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは正しく接続してください。
- 複数台接続時のPCS間通信ケーブルは正しく接続してください。
- パワーコンディショナを複数台接続する場合は、同一シリーズのみで接続してください。
- 他機種のメンテナンスツールを使用しないでください。計測ユニットが故障するおそれがあります。
- 通信ケーブル(別売)は指定のものをご使用ください。
- 計測ユニットの落下により稀に怪我をする恐れがあります。計測ユニットを振動、衝撃の影響が大きいところに取付けないで下さい。
また、木材ではない材質の壁に計測ユニットを設置する場合は、必要により市販のボードアンカーにより、しっかりと壁掛け用取付板を壁面に固定してください。
- 電流センサは、落としたり衝撃を加えたりすると正確な計測ができなくなります。
- 電流センサの向き、設置場所を誤ると正確な計測ができません。
- 計測ユニットは無線による通信を行います。無線通信による影響が発生する場合は、影響を与えている可能性のある機器からできるだけ離して設置し、影響が無くなった事を確認の上、計測ユニットを使用してください。
- 計測ユニットは2.4GHz無線による通信を行います。電子レンジ、ワイヤレスAV機器など、強力な電波が発生する装置からできるだけ離して設置してください。
- 計測ユニット電波干渉の事例が発生した場合は、計測ユニットの電源(計測ユニット用ブレーカ)をオフにし、お買い上げの販売店に連絡してください。
- 初期設定時、使用環境に合わせて、正しく種別設定(買取モード(余剰買取)、電流センサの有無など)を行ってください。設定を間違えると、必要なデータが蓄積できなくなることがあります。

安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

電波干渉についての注意

計測ユニットの使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器の他、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ・ 計測ユニットを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・ 万一、計測ユニットから移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- ・ その他、計測ユニットから移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書裏表紙に記載のお問い合わせ先にご相談ください。

■製品の表記の説明



- ①「2.4」 : 2.4GHz帯を使用する無線設備を意味します。
- ②「DS/OF」 : DS-SS 方式およびOFDM 方式の変調方式が可能であることを意味します。
- ③「4」 : 想定される干渉距離が40m以下であることを意味します。
- ④「■ ■ ■」 : 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

無線 LAN セキュリティについての注意

無線接続では、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線LANルータ間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）、特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）、傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）、コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線LANルータは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

安全上のご注意/安全上の要点/使用上の注意(つづき)

●製品全般(計測ユニット、3G ルータ、Wi-Fi ルータ)の使用上の注意

使用上の注意

- 本製品を次のような場所に設置しないでください。
 - 直射日光の当たるところ
 - 虫や小動物が多いところ
 - 温度変化が激しいところ
 - 潮風にさらされるところ
 - 風雨にさらされるところ
 - 屋外や軒下等の雨水があたるところ
 - 水を浴びる、水の侵入があるところ
 - 氷結するところ
 - 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有毒ガスのあるところ
 - 浴室、脱衣所、台所等の水蒸気、油蒸気、結露のあるところ
 - 使用温度範囲以外になるところ
計測ユニットの使用温度範囲：-20 ~ +50 °C
Wi-Fiルータの使用温度範囲：0 ~ +40 °C
3Gルータの使用温度範囲：-20 ~ +60 °C
 - 使用湿度範囲以外になるところ
計測ユニットの使用湿度範囲：25 ~ 95%RH
Wi-Fiルータの使用湿度範囲：10 ~ 85%RH
3Gルータの使用湿度範囲：80%RH以下
 - 標高2000mを超えるところ
 - 塵埃(粉塵、砂塵、綿ホコリ、金属粉、オガ屑、ワラ屑等)の多いところ
 - 金属・金具類に覆われた場所、金属の壁への設置、金属の机の上、金属製品のそば、電子レンジおよび無線に影響を与える機器(電話機・FAX・パソコン・パソコン周辺機器・テレビ・IH製品)の近く
- 本製品を保管する場合は、以下の温湿度範囲で保管してください。
 - 保管温度範囲
計測ユニットの保管温度：-20 ~ +50°C
3Gルータの保管温度：-40 ~ +80°C
 - 保管湿度範囲
計測ユニットの保管湿度：25 ~ 95%RH
3Gルータの保管湿度：85%RH以下(結露なきこと、電氣的及び機械的なストレスが無いこと)

施工・設定の流れ

部材・機器を準備します (P.17)



システム配線について確認します (P.23)



計測ユニットを設置します (P.24)



通信ケーブルを配線し、パワーコンディショナの
設定を行います(P.27)

- パワーコンディショナのユニットNo.設定(P.27)
- パワーコンディショナの終端抵抗設定(P.28)
- パワーコンディショナと計測ユニットの配線(P.29)

**必ず各パワーコンディショナのユニットNo.
と終端抵抗の設定を行ってください。**



電流センサを設置します (P.32)

- 主幹用電流センサの設置(P.32)
- 外部発電機用電流センサの設置(P.34)



計測ユニットに電圧検知用ケーブルを配線します (P.36)



施工・設定の流れ(つづき)



ルータを設置します (P.40)

- 固定回線用の場合 (P.40)
- 3G回線セットの場合(P.41)



計測ユニットの初期設定を行います (P.44)

- 計測ユニットの起動(P.44)
- 初期設定(P.47)



初期設定の完了 (P.55)

- パワーコンディショナの動作確認(P.56)
- 施工結果記入シートにシステム構成情報を記載し、保管してください

本製品について

●仕様

《計測ユニット》

項目	仕様
■型式	KP-MU1S-M-NE
■使用周囲温度	-20 ~ +50 °C (氷結なきこと)
■保存温度	-20 ~ +50 °C (氷結なきこと)
■使用周囲湿度	相対湿度 25 ~ 95 % (結露なきこと)
■保存湿度	相対湿度 25 ~ 95 % (結露なきこと)
■接続可能パワコン	<オムロン製> KP□K / KP□K2 シリーズ KP□M シリーズ (KP□M * * KC シリーズは対象外になります。) KP□R シリーズ 末尾に-Aのある形式が出力制御対応*パワーコンディショナになります。 最大接続台数：6台(同一シリーズに限る)
■電源	単相3線 AC100V
■消費電力 [W]	最大 6.5W
■入力容量 [VA]	最大 11VA
■質量	約 800g
■外形寸法	幅 130 mm x 奥行 60 mm x 高さ 260 mm

※省令改正に伴う新たな出力制御ルールへの対応について

計測ユニットと出力制御機能に対応したパワーコンディショナを指定の通信ケーブルで接続した場合に限り、新たな出力制御ルールに対応することができます。
出力制御を有効にする際は、計測ユニットのソフトウェアを更新する必要があります。
電力会社から正式な案内があるまでは、実施する必要はありません。

本製品について(つづき)

《Wi-Fi ルータ》

項目	仕様
■ 型式	WSR-300HP
■ 使用周囲温度	0 ~ +40 °C (ただし結露または氷結しないこと)
■ 使用周囲湿度	相対湿度 10 ~ 85 %
■ 電源	単相 2 線 AC100V
■ 消費電力 [W]	最大 5.8W
■ 質量	約 232g
■ 外形寸法	幅 31 × 奥行 140 × 高さ 140mm

《3G ルータ》

項目	仕様
■ 型式	uM210R type-M
■ 使用周囲温度	-20 ~ +60 °C
■ 保存温度	-40 ~ +80 °C
■ 使用周囲湿度	相対湿度 80 %以下(結露なきこと)
■ 保存湿度	相対湿度 85 %以下 (結露なきこと、電気的および機械的なストレスが無いこと)
■ 電源	単相 2 線 AC100V
■ 消費電力 [W]	最大 10W
■ 入力容量 [VA]	最大 12.5VA
■ 質量	約 550g(本体のみ)
■ 外形寸法	幅 115 mm × 奥行 100 mm × 高さ 36 mm (本体のみ ※突起部除く)

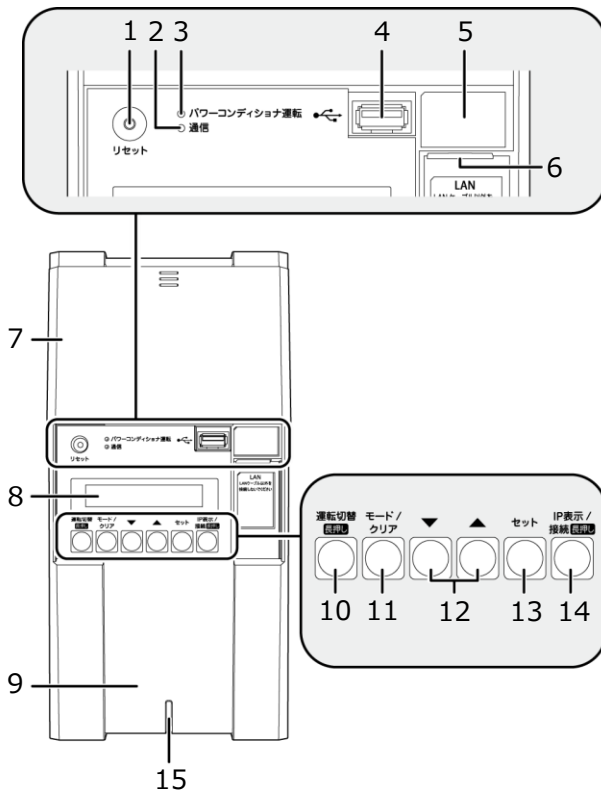
本製品について(つづき)

●各機器の詳細

■計測ユニット(EIG センサ)

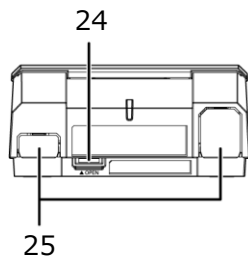
■正面図

スライドカバーを開けた状態



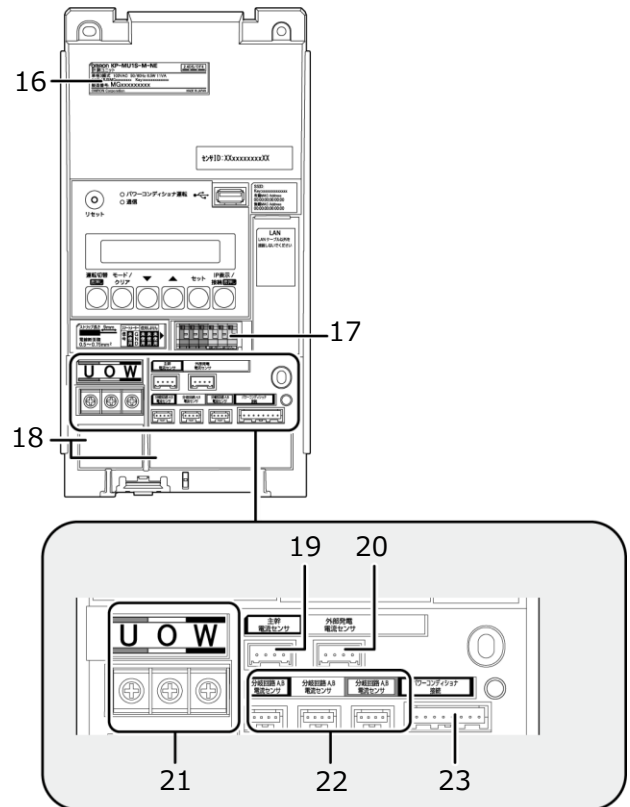
■底面図

フロントカバーを取り付けた状態



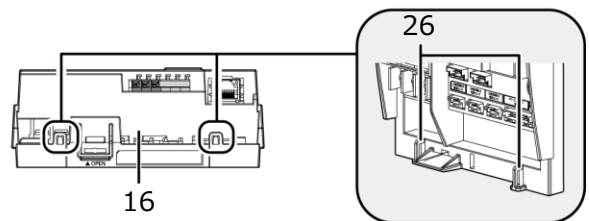
■正面図

フロントカバーを取り外した状態



■底面図

フロントカバーを取り外した状態



本製品について(つづき)

1 リセットスイッチ

計測ユニットを再起動します。

2 通信ランプ

計測ユニットの無線通信状態を表示します。

- 橙色点灯：無線LAN ルータと無線通信中
- 橙色点滅：無線LAN ルータと正しく無線通信できていない状態
- 緑色点灯：有線LAN接続状態

3 パワーコンディショナ運転ランプ

パワーコンディショナの運転状態を表示します。

- 緑色点灯：連系運転中
- 橙色点灯：自立運転中
- 赤色点灯：運転停止中
- 消灯：パワーコンディショナが無応答時

- パワーコンディショナを複数台設置し、各パワーコンディショナの運転状態が異なる場合は、以下の優先順位で表示します。

- ①連系運転中（緑色点灯）
- ②自立運転中（橙色点灯）
- ③運転停止中（赤色点灯）

例えば、パワーコンディショナ3台を設置し、1台が連系運転中、2台が運転停止中の場合は、緑色点灯します。

4 USBコネクタ (Type A)

使用しません。

5 SSID、パスワード、有線MACアドレス、無線MACアドレス

機器固有の英数字が記載されています。

6 LANポート

有線接続の設定を行う場合(P.66)に、ルータとLANケーブルで接続します。

7 スライドカバー

8 表示部

発電電力やエラーコード、接続されているパワーコンディショナの運転状態などを表示します。

9 フロントカバー

10 運転切替ボタン

接続されているパワーコンディショナの運転状態を切り替えます。

11 モード/ クリアボタン

表示部の表示内容の切り替えとキャンセル操作に使用します。

12 ▼ / ▲ボタン

表示中の項目の選択に使用します。

13 セットボタン

表示中の項目の決定に使用します。

14 IP表示/ 接続ボタン

短押し：計測ユニットのIPアドレスを表示します。

長押し：かんたん無線接続機能を動作させます。

15 状態表示ランプ

計測ユニットの動作状態を表示します。

- 緑色点灯：通常動作中
- 緑色点滅：初期設定完了前
- 橙色点滅：停電中
- 赤色点灯：自動復旧が不可能な異常発生中
- 赤色点滅：自動復旧の可能性のある異常発生中
- 消灯：パワーコンディショナが夜間発電停止状態かつ、無操作時

16 製造番号

機器固有の英数字が記載されています。

17 バルス端子

使用しません。

18 配線口

配線時に使用します。

19 主幹用電流センサケーブル接続コネクタ

主幹用電流センサケーブルを接続するコネクタです。

20 外部発電機用電流センサケーブル接続コネクタ

外部発電機用電流センサケーブルを接続するコネクタです。

21 端子台[U/O/W]

電圧検知用ケーブルを接続します。

22 分岐回路A,B 電流センサケーブル接続コネクタ

使用しません。

23 パワコン・計測ユニット間通信ケーブル接続コネクタ

パワーコンディショナと計測ユニット間で通信を行うためのパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを接続するコネクタです。

24 フロントカバー取り外しボタン

25 ノックアウトホール

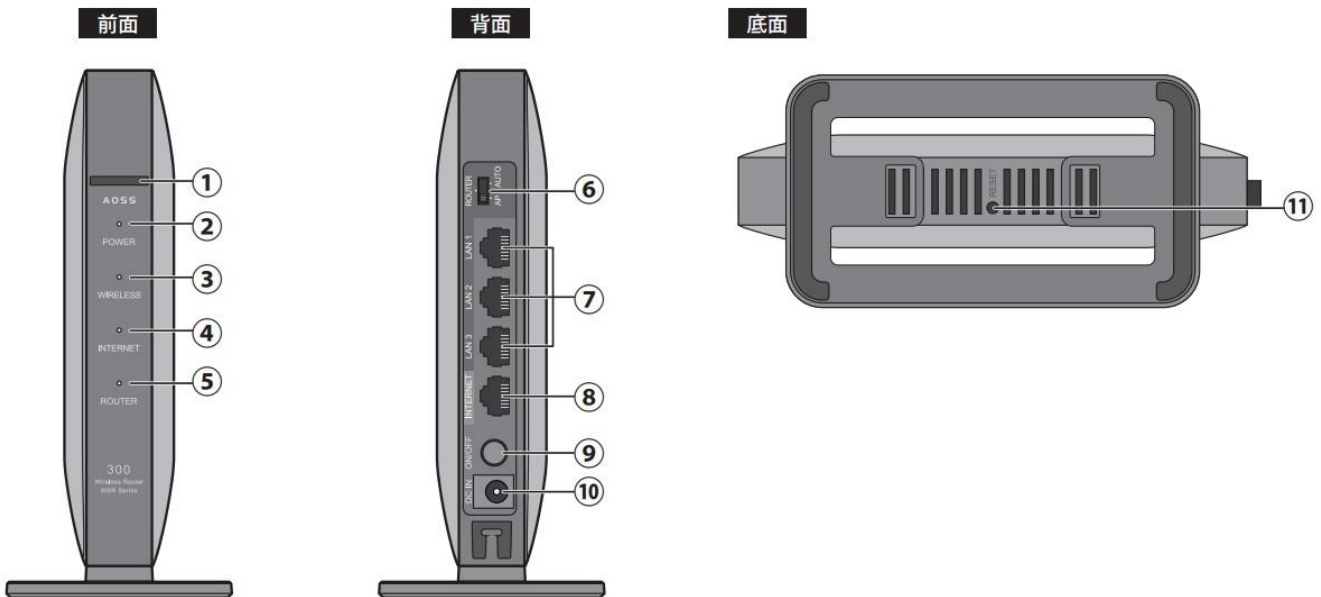
露出配線の場合に使用します。

26 結束バンド差し込み口

露出配線の場合に、配線ケーブルを同梱の結束バンドで固定します。

本製品について(つづき)

■Wi-Fi ルータ



1 AOSSボタン

Wi-Fiルータの電源を入れた状態で、ワイヤレスランプが点滅するまで（約1秒間）ボタンを押すと、Wi-FiルータがAOSS/WPS待ち受け状態になります。

2 POWERランプ

点灯（緑）：電源がオンの状態、通常状態
点滅（緑）：システムが起動中
消灯：電源がオフの状態
点滅（橙）：エラー発生時

3 WIRELESSランプ

点灯（緑）：無線LAN動作時/無線LAN通信時
2回点滅（緑）：AOSS/WPS待ち受け状態
連続点滅（緑）：AOSS/WPS失敗
消灯：無線LAN無効時

4 INTERNETランプ

点灯（緑）：インターネット接続が可能な状態
消灯：インターネットに未接続の状態

5 ROUTERランプ

点灯（緑）：ルータ（ルータ機能オン）として動作中
消灯：ブリッジ（ルータ機能オフ）として動作中

6 モードスイッチ

AUTO：ルータ機能のオン/オフを自動設定します。
ROUTER：ルータ（ルータ機能オン）として動作します。
AP：ブリッジ（ルータ機能オフ）として動作します。
※出荷時は「AP」に設定しています。

7 LAN端子

パソコンやハブなどを接続します。
1000/100/10Mbpsに対応しています。

8 INTERNET端子

プロバイダーから提供された機器（モデムなど）を接続します。1000/100/10Mbpsに対応しています。

9 電源ボタン

Wi-Fiルータの電源のオン/オフを行うボタンです。電源をオフにしたときは、内部処理を行うため、実際に電源が切れるまで10秒程度かかります。

10 DCコネクタ

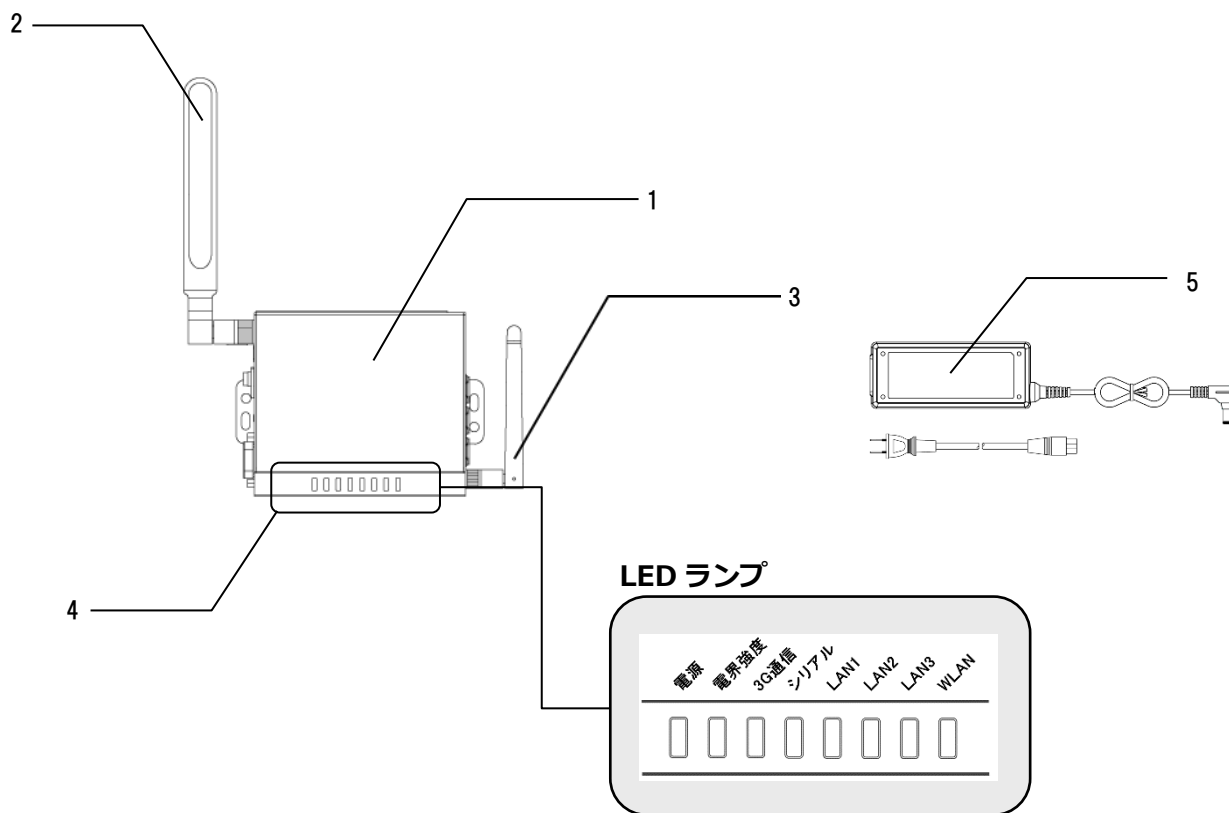
付属のACアダプタを接続します。

11 RESETボタン

電源を入れた状態で、POWERランプが緑色に点滅するまで（約5秒間）ボタンを押し続けると、設定が出荷時の状態に戻ります。

本製品について(つづき)

■3G ルータ



1 3Gルータ本体

データ通信を行う装置です。

2 3Gアンテナ

3G網とデータ通信を行うアンテナです。

3 Wi-Fiアンテナ

計測ユニットとデータ通信を行うアンテナです。

4 LEDランプ

3Gルータの動作状況を表示します。

●電源

- 緑点滅：電源ON
- 消灯：電源OFF

●電界強度

- 緑色点灯：電界レベル5（強）
- 緑色点滅：電界レベル4
- 橙色点灯：電界レベル3
- 橙色点滅：電界レベル2
- 赤色点灯：電界レベル1
- 赤色点滅：電界レベル0（弱）

●3G通信

- 赤色点灯：圏外
- 橙色点滅：メンテナンス中
- 橙色点灯：ソフトウェア書込中
- 赤色点滅：装置内異常
- 緑色点滅：発信中／着信中
- 緑色点灯：通信中
- 消灯：通信なし

●シリアル

- 消灯(使用しません)

●LAN1、LAN2、LAN3

- 緑色点灯：リンクアップ（送受信なし）
- 消灯：リンクダウン

●WLAN

- 緑色点滅：送信または受信中
- 緑色点灯：WLAN有効（送受信なし）
- 消灯：WLAN無効

5 ACアダプタ

3GルータのACアダプタです。

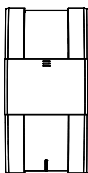
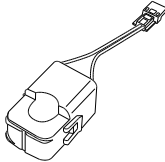
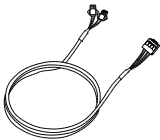





施工手順

部材・機器の準備

●同梱品の確認






施工の前にすべてそろっていることを確認してください。

《共通》

名称	形状	説明	数量
計測ユニット (EIG センサ)		計測ユニット本体	1 台
主幹用電流センサ (主幹計測 CT)		主幹電流を計測する為の CT	2 個
主幹用電流センサ ケーブル (3m)		計測ユニットと主幹用電流 センサを接続するケーブル	1 本
壁取付け用木ネジ		計測ユニットを壁に設置する 際に使用する木ネジ	4 本
配線用圧着端子		計測ユニット用電圧検知用 ケーブル作成に使用する 圧着端子	4 個
絶縁キャップ		計測ユニット用電圧検知用 ケーブル作成に使用する 絶縁キャップ	3 個
結束バンド		計測ユニットを露出配線する 場合に、ケーブルの結束に 使用するバンド	2 本
エコめがね スタートキット フォルダ		施主様向けエコめがね スタートキットのフォルダ	A4 サイズ 1 部


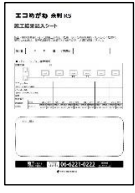


部材・機器の準備 (つづき)

《共通》(つづき)

名称	形状	説明	数量
施主様向け ガイドブック		施主様向けエコめがね スタートキット	A4 サイズ 1 部
ログインカード		施主様向けエコめがね スタートキット	A4 サイズ 1 部
販売会社様向け 見守りキット フォルダ		販売会社様向けエコめがね i 見守りキットのフォルダ	A4 サイズ 1 部
エコめがね i マニュアルブック		販売会社様向けエコめがね i 見守りキット	A4 サイズ 1 部
商品登録シート		販売会社様向けエコめがね i 見守りキット	A4 サイズ 1 部

部材・機器の準備 (つづき)

《共通》 (つづき)

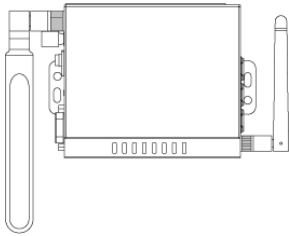
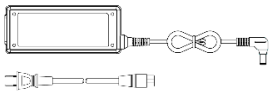

名称	形状	説明	数量
初期設定 簡易マニュアル		施工時に初期設定手順を 確認する為のチェックシート	A4 サイズ 折り畳み 両面 1 枚
施工結果 記入シート		設定結果を書き留めておく為 のシート	A4 片面 1 枚
施工・取扱説明書		本冊子	A4 サイズ 1 部
保証書		エコめがね RS 余剰 10 年プランの保証書	A6 サイズ 1 枚

部材・機器の準備 (つづき)

《固定回線用》

名称	形状	説明	数量
Wi-Fi ルーター式		Wi-Fi ルーター式 ※左記梱包箱デザインは、 変更になる可能性が あります	1 式

《3G 回線セット》

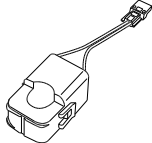



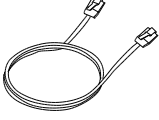
名称	形状	説明	数量
3G ルータ 1 式		3G ルータ本体、 3G アンテナ、 Wi-Fi アンテナ	1 式
AC アダプタ		3G ルータ用 AC アダプタ	1 本
3G ルータ 取扱説明書		3G ルータ取扱説明書	1 部

使用しなかった同梱品は、お客様にお渡しください。

部材・機器の準備 (つづき)

●別売品の準備

設置環境やシステム構成に合わせて、下記の別売り品を準備してください。

名称	形状	説明	備考
外部発電機用 電流センサ (外部発電 CT)		外部発電電流を計測する為の CT	
主幹用 電流センサケーブル (3m、5m、15m、30m)		計測ユニットと 主幹用電流センサを接続する ケーブル	
外部発電機用 電流センサケーブル (3m、5m、15m、30m)		計測ユニットと 外部発電機用電流センサを 接続するケーブル	
パソコン・ 計測ユニット間 通信ケーブル (3m、5m、15m、30m)		計測ユニット - パワーコンディショナ間の RS485 通信用ケーブル	設置環境にあわ せて、必ず 1 本 選定する必要が あります。
PCS 間通信ケーブル (3m、5m、15m、30m)		パワーコンディショナ間の RS485 通信用ケーブル	パワーコンディ ショナを複数台 設置する場合に 各パワーコンデ ィショナ間の接 続用に準備して ください。

部材・機器の準備 (つづき)

● 工事店様で準備する部材・機器

設置・配線

■ 計測ユニット用ブレーカ

- 1Φ3W AC100/200V、定格 20A

■ 電圧検知用ケーブル作成用部材

- VVF Φ2mm × 3 芯 (銅単線)
- 圧着端子[1 式] (分電盤の計測ユニット用ブレーカへの配線用)
選定された計測ユニット用ブレーカに応じた圧着端子をご準備ください。
- 絶縁キャップ[1 式] (分電盤の計測ユニット用ブレーカへの配線用)

■ 工具・測定器具

- トルクドライバ (締め付けトルク : 1.2 ~ 1.6N・m)
- 裸圧着端子用圧着工具 (JIS 適合品)

■ その他

- 穴埋め用パテ (計測ユニットの配線口用)
- ボードアンカーなどの壁面補強材
(計測ユニットを薄い木材や木材ではない材質の壁に取り付ける場合に必要になります)

初期設定

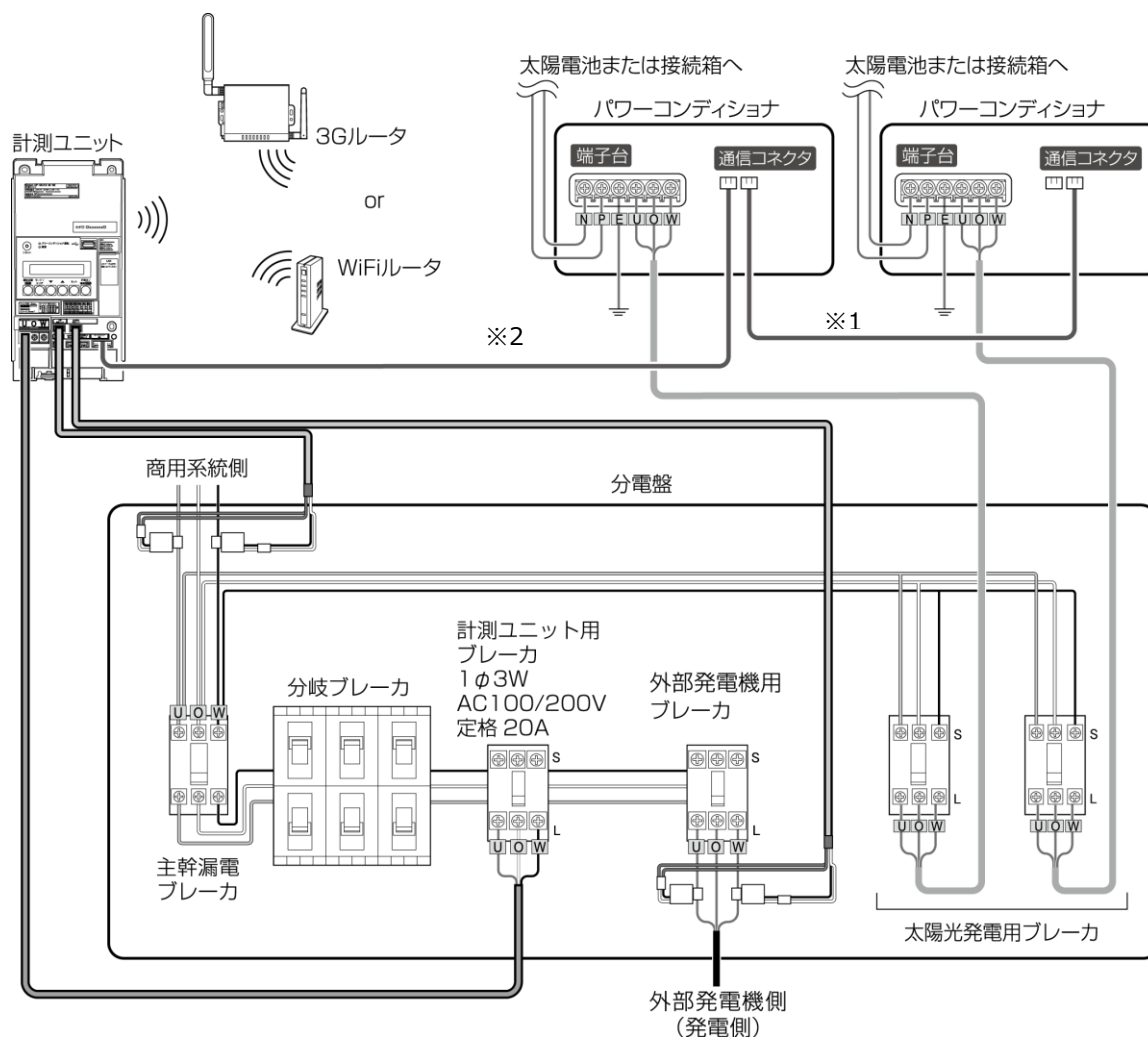
- 電流センサの設置方向確認の為に電化製品
- 消費電力 150W 以上の電化製品(例 : ドライヤー) × 2 台 (U 相、W 相確認用)

上記以外に必要な部材・機器がある場合は、工事店様でご準備ください。

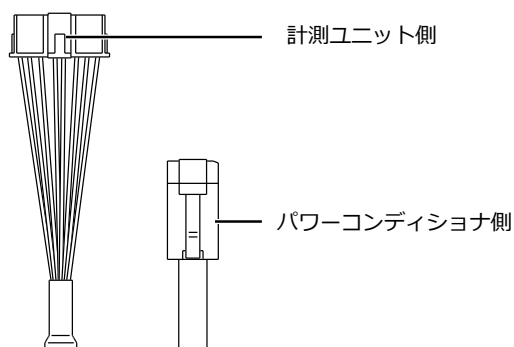
システムの配線について

- パワーコンディショナは最大 **6 台**まで接続できます。
- パワーコンディショナと太陽電池間の配線はパワーコンディショナの形式によって異なります。
パワーコンディショナの施工マニュアルも併せてお読みください。

パワーコンディショナを 2 台接続し、外部発電機用電流センサを設置する場合のシステムの配線図を示します。
(機器のイラストはイメージ図です)



- ※1 パワーコンディショナ間の配線について詳しくは P.27～31、
およびパワーコンディショナの施工マニュアルをお読みください。
- ※2 パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは、
パワーコンディショナ側と計測ユニット側で端子の形状が異なります。
ケーブルの向きに注意して配線してください。

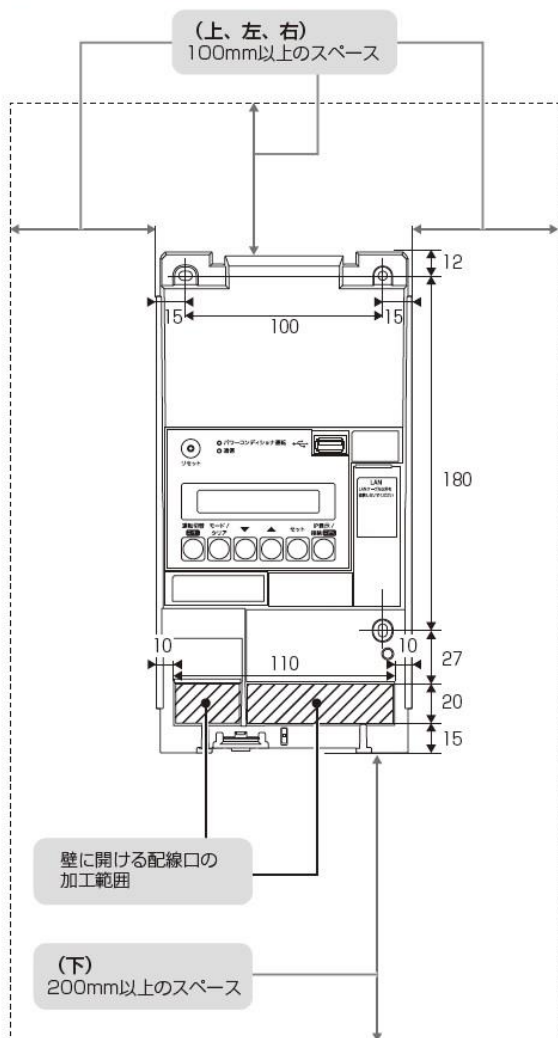


計測ユニットの設置

●計測ユニットの設置場所を確認する

計測ユニットの設置場所に、下図のスペースが確保できるか確認ください。

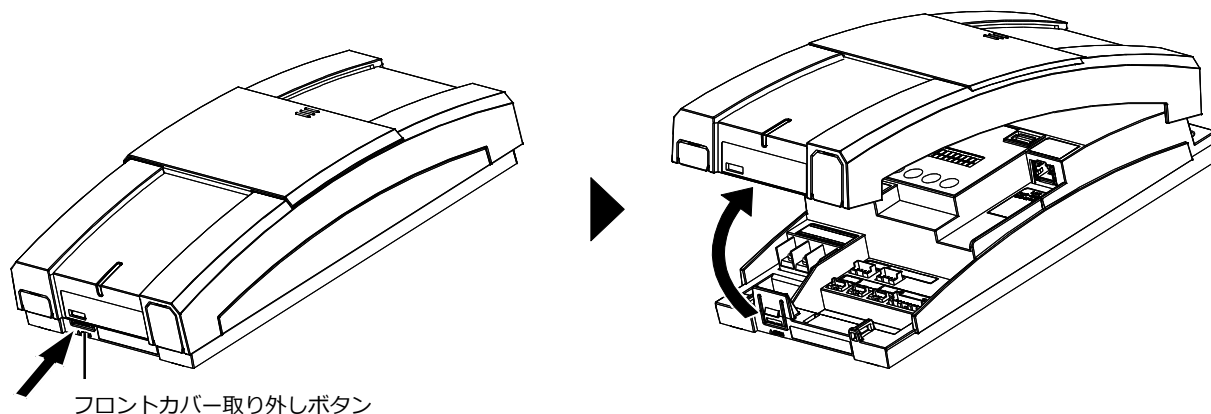
取り付け寸法図 (単位 : mm)



- 計測ユニットの上面、左面、右面から 100mm 以内、下面から 200mm 以内には障害物等を置かないように取り付けてください。周囲に障害物等があると、無線到達距離が短くなります。
- 垂直な壁に取り付けてください。
- 横にしたり、傾けたりして取り付けないでください。
- 薄い木材や木材ではない材質の壁に計測ユニットを設置する場合は、市販のボードアンカーを使って、壁面にしっかりと固定してください。

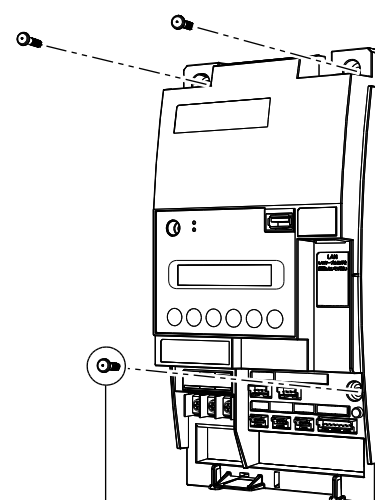
計測ユニットの設置 (つづき)

- 1** 計測ユニットのフロントカバー取り外しボタンをマイナスドライバなどの先の細い工具で押しながら、フロントカバーを取り外す



- 2** 図のように計測ユニットを同梱の壁取り付け用木ねじ(Φ4.1 × 25)(3本)で壁に固定する

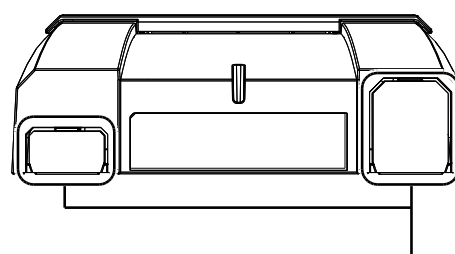
- 3か所をねじ止めしてください。
- フロントカバーは計測ユニットの設置・配線が終わるまで外したままにしておいてください。



壁取り付け用木ねじ
(Φ4.1×25) (同梱)

- 3** (露出配線の場合のみ)
フロントカバー底面にノックアウトホールを開ける

- ニッパーとペンチを使ってノックアウトホールを開けてください。

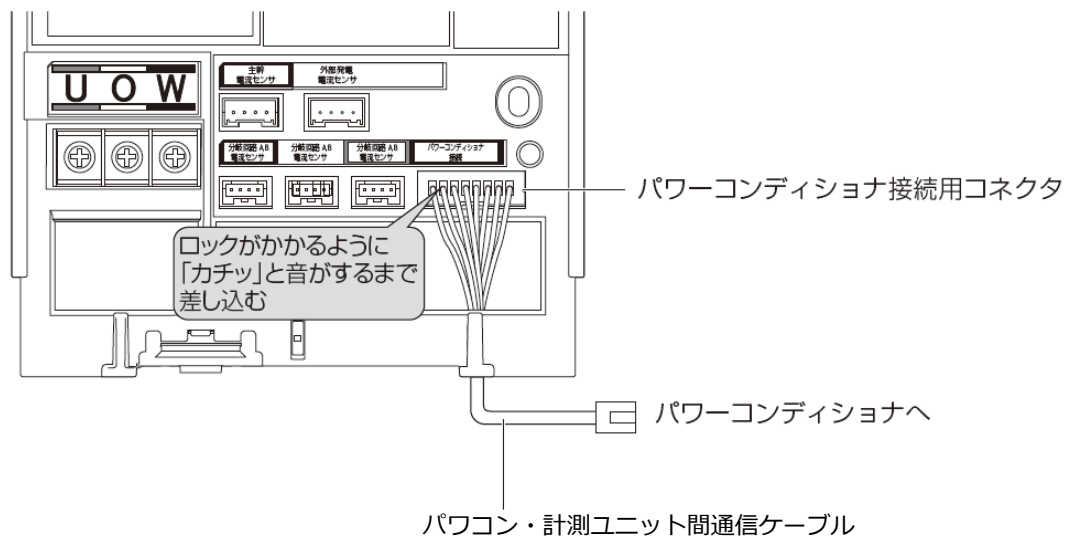


ノックアウトホール

計測ユニットの設置 (つづき)

4 計測ユニットにパワコン・計測ユニット間通信ケーブルをつなぐ。

- パワーコンディショナ接続用コネクタに接続してください。



パワーコンディショナの配線・設定

パワーコンディショナの形式によって、設定方法や通信ケーブルの配線方法が異なりますので、パワーコンディショナの形式を確認してから設定・配線してください。

- パワーコンディショナの施工マニュアルも併せてお読みください。

● パワーコンディショナのユニット No. 設定

パワーコンディショナを接続する場合は、パワーコンディショナにてユニットNo.の設定が必要になります。
(パワーコンディショナが1台の場合はユニットNo. の設定は必要ありません)

パワーコンディショナ設定スイッチ (MODキー、ENTキー、ESCキー) を操作して、設定項目の「unit」 (通信ユニットNo.) を変更してください。

接続台数	ユニットNo.	ユニットNo.の設定
パワーコンディショナ 1 台目	1	変更する必要があります。(「0」→「1」)
パワーコンディショナ 2 台目	2	変更する必要があります。(「0」→「2」)
パワーコンディショナ 3 台目	3	変更する必要があります。(「0」→「3」)

- 計測ユニットとの接続が近い順に、「パワーコンディショナ1台目」、「パワーコンディショナ2台目」、「パワーコンディショナ3台目」と表現しています。
- パワーコンディショナの工場出荷時は、ユニットNo.は「0」に設定されています。
必ず1台目のユニットNo.は「1」に設定を変更してください。
- パワーコンディショナ4台目以降は、「4」、「5」、「6」の順でユニットNo. を設定してください。

- ユニットNo.が正しく設定されていないと、発電量を算出できません。
必ず上記の表のように設定してください。ユニットNo.の設定方法については、パワーコンディショナの施工マニュアルをお読みください。
- 本製品に同梱の施工結果記入シートにユニットNo、パワコンNo、形式、製造番号を記入してください。

(例)

■ パワーコンディショナ情報												
設置台数		3 台										
ユニット No.		1		2		3						
[パワコンに設定した番号]												
パワコン No.		1		2		3						
[計測ユニットが割り当てた番号]												
型式		KP48R-J3		KP48R-J3		KP48R-J3						
製造番号		000000000		111111111		222222222						
端末抵抗 の設定	KP□K	ON / OFF		ON / OFF		ON / OFF		ON / OFF		ON / OFF		
	KP□M、R	終端抵抗 1	終端抵抗 2	終端抵抗 1	終端抵抗 2	終端抵抗 1	終端抵抗 2	終端抵抗 1	終端抵抗 2	終端抵抗 1	終端抵抗 2	
		ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	



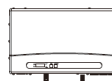
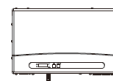
パワーコンディショナの配線・設定(つづき)

●パワーコンディショナの終端抵抗設定

パワーコンディショナを複数台接続する場合は、終端抵抗の設定が必要になります。
 (パワーコンディショナが1台の場合は終端抵抗の設定は必要ありません)
 パワーコンディショナの施工マニュアルも併せてお読みください。

KP□K / KP□K2 シリーズを使用する場合の設定

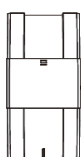

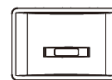
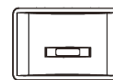
工場出荷時は、終端抵抗は「ON」に設定されています。

計測ユニット	パワーコンディショナ		
	計測ユニットと接続	中間	計測ユニットから最遠
			
	終端抵抗	終端抵抗	終端抵抗
	OFF	OFF	ON

- 計測ユニットと接続されているパワーコンディショナおよび中間のパワーコンディショナの終端抵抗を「OFF」にしてください。

KP□M、KP□R シリーズを使用する場合の設定

工場出荷時は、終端抵抗 1/ 終端抵抗 2 とともに「ON」に設定されています。

計測ユニット	パワーコンディショナ					
	計測ユニットと接続 ^{※1}		中間 ^{※2}		計測ユニットから最遠 ^{※3}	
						
	終端抵抗 1	終端抵抗 2	終端抵抗 1	終端抵抗 2	終端抵抗 1	終端抵抗 2
	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON

- ※ 1. 「計測ユニットと接続」のパワーコンディショナの終端抵抗 1 を「OFF」にしてください。
- ※ 2. パワーコンディショナを3台以上接続する場合に必要な設定です。「計測ユニットと接続」のパワーコンディショナと「計測ユニットから最遠」のパワーコンディショナ以外は、終端抵抗を「OFF」にしてください。
- ※ 3. 「計測ユニットから最遠」のパワーコンディショナの終端抵抗は「ON」のままにしてください。

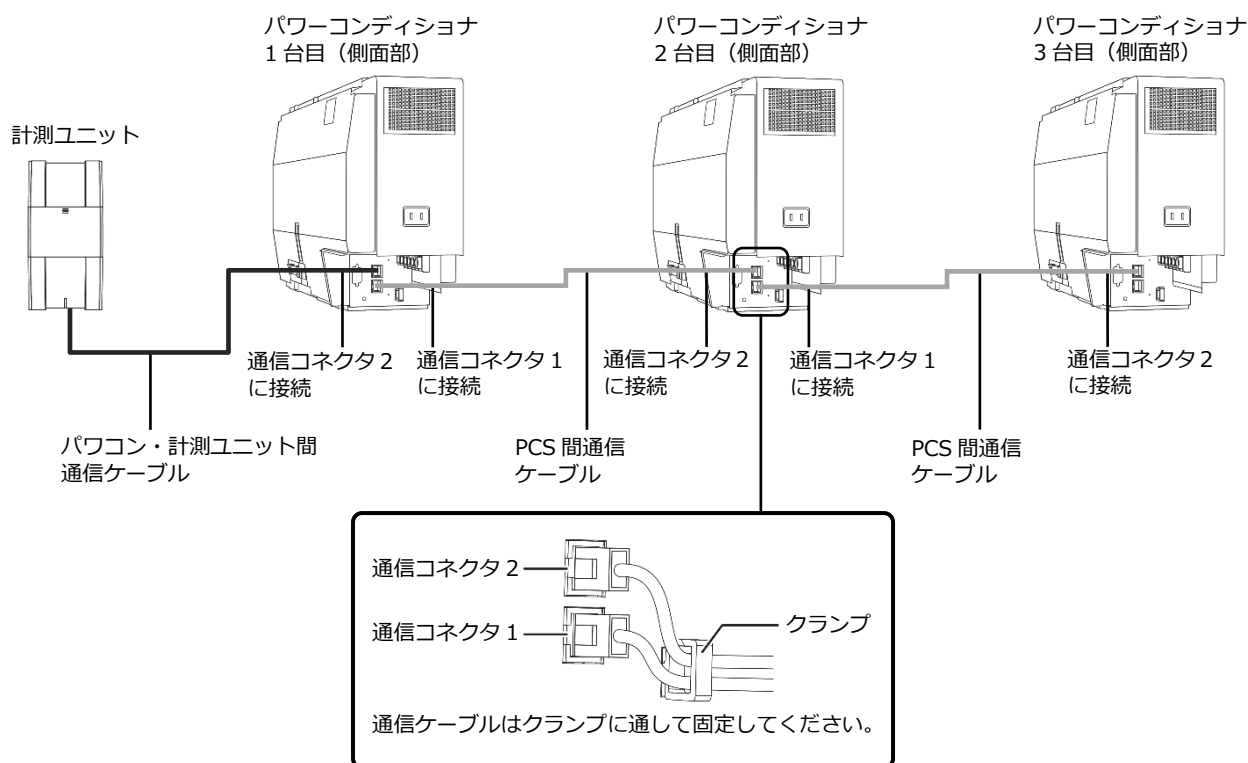
パワーコンディショナの配線・設定(つづき)

●パワーコンディショナと計測ユニットの配線

- パワーコンディショナを複数台設置する場合は、システムの総発電量を計測するために、パワーコンディショナ間にPCS間通信ケーブルをつないでください。

KP□K / KP□K2 シリーズへの配線

計測ユニットにつないだパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを、パワーコンディショナの通信コネクタ2に差し込む



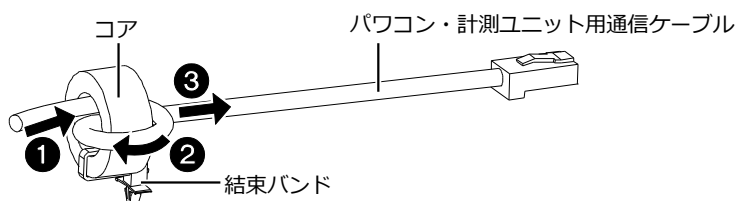
- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルの長さが足りない場合は別売品をご利用ください。別売の通信ケーブルについてはP.21をお読みください。
- パワーコンディショナの通信ケーブルと電力ケーブルを一緒に結束しないでください。
- パワーコンディショナを1台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ1台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを2台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ1台目」、「パワーコンディショナ2台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを4台以上使う場合も同様に接続してください。

パワーコンディショナの配線・設定(つづき)

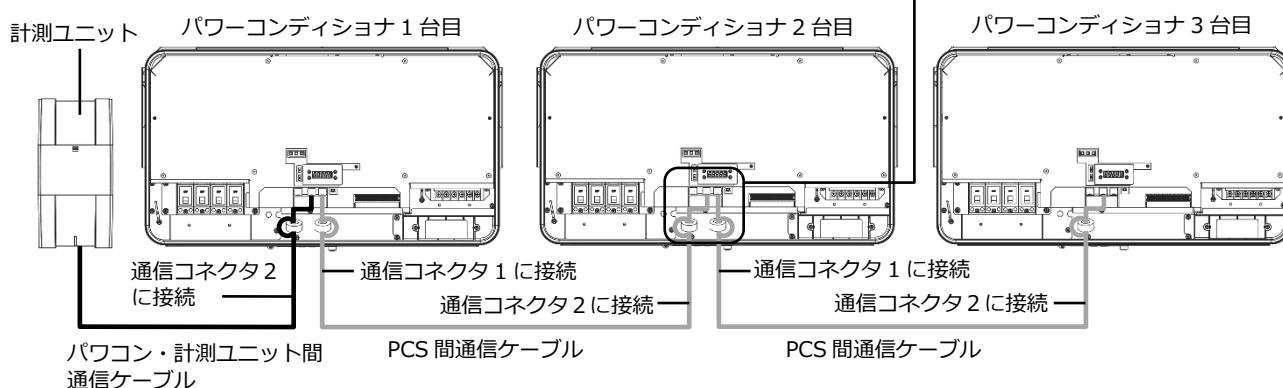
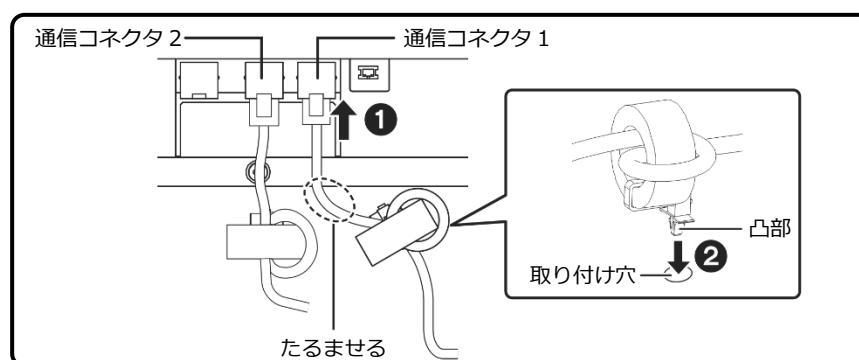
KP□M シリーズ への配線

1 計測ユニットにつないだパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを、パワーコンディショナに同梱のコアに巻きつける

- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルは、結束バンド台座の反対側から通してください。



2 パワコン・計測ユニット間通信ケーブルを、パワーコンディショナの通信コネクタ2に差し込み、結束バンド台座の凸部を取り付け穴に押し込む

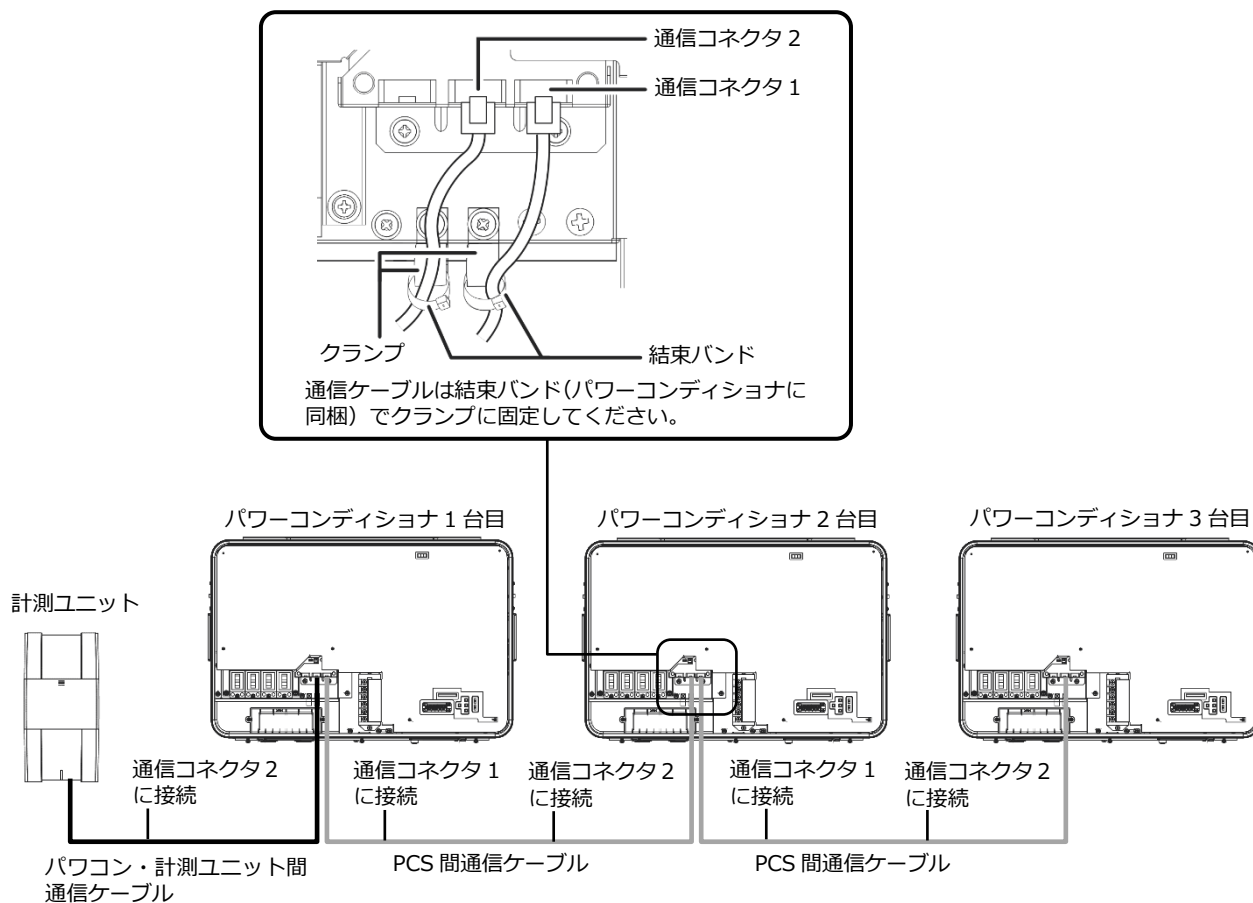


- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルの長さが足りない場合は別売品をご利用ください。別売の通信ケーブルについてはP.21をお読みください。
- パワーコンディショナの通信ケーブルと電力ケーブルを一緒に結束しないでください。
- パワーコンディショナを1台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ1台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを2台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ1台目」、「パワーコンディショナ2台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを4台以上使う場合も同様に接続してください。

パワーコンディショナの配線・設定(つづき)

KP□R シリーズへの配線

計測ユニットにつないだパワコン・計測ユニット間通信ケーブルを、パワーコンディショナの通信コネクタ2に差し込む



- パワコン・計測ユニット間通信ケーブルの長さが足りない場合は別売品をご利用ください。別売の通信ケーブルについてはP.21をお読みください。
- パワーコンディショナの通信ケーブルと電力ケーブルを一緒に結束しないでください。
- パワーコンディショナを1台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1 台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを2台設置する場合は、上記の計測ユニットと「パワーコンディショナ 1 台目」、「パワーコンディショナ 2 台目」の配線を行ってください。
- パワーコンディショナを4台以上使う場合も同様に接続してください。

主幹用電流センサの設置

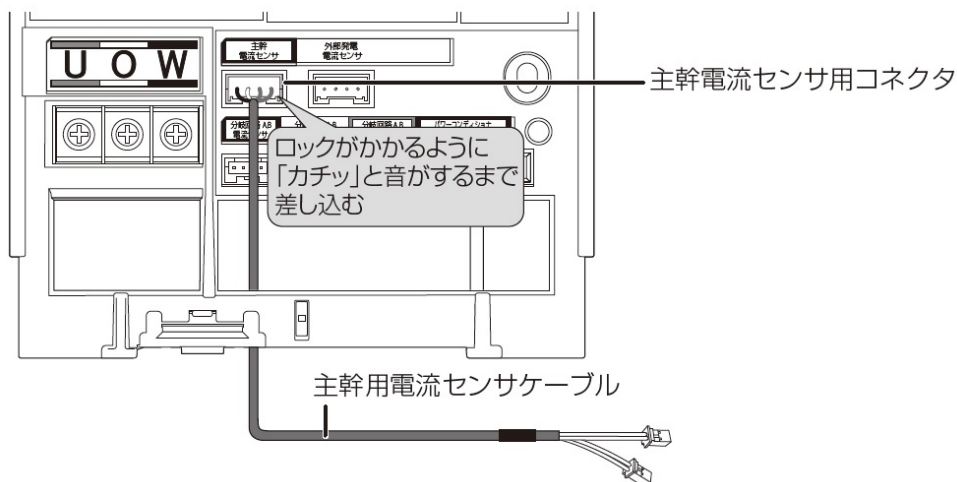
主幹用電流センサを取り付ける際には、以下の項目に注意してください。

- 主幹用電流センサの向き、設置場所を誤ると正確な計測ができません。
- 主幹用電流センサは、落としたり衝撃を加えたりすると正確な計測ができなくなります。

1 計測ユニットに主幹用電流センサケーブルをつなぐ

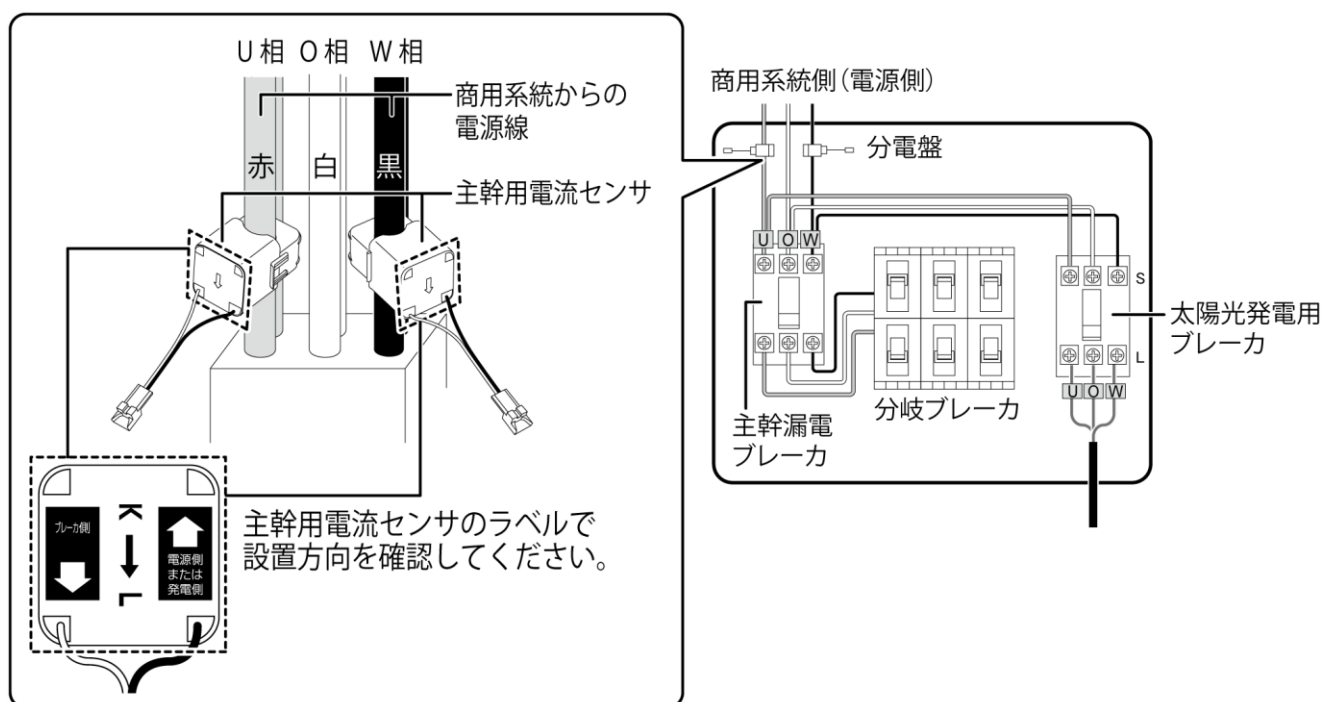
※ケーブルの長さが足りない場合は別売品をご利用ください。(P.21)

- 主幹用電流センサケーブル接続コネクタに接続してください。



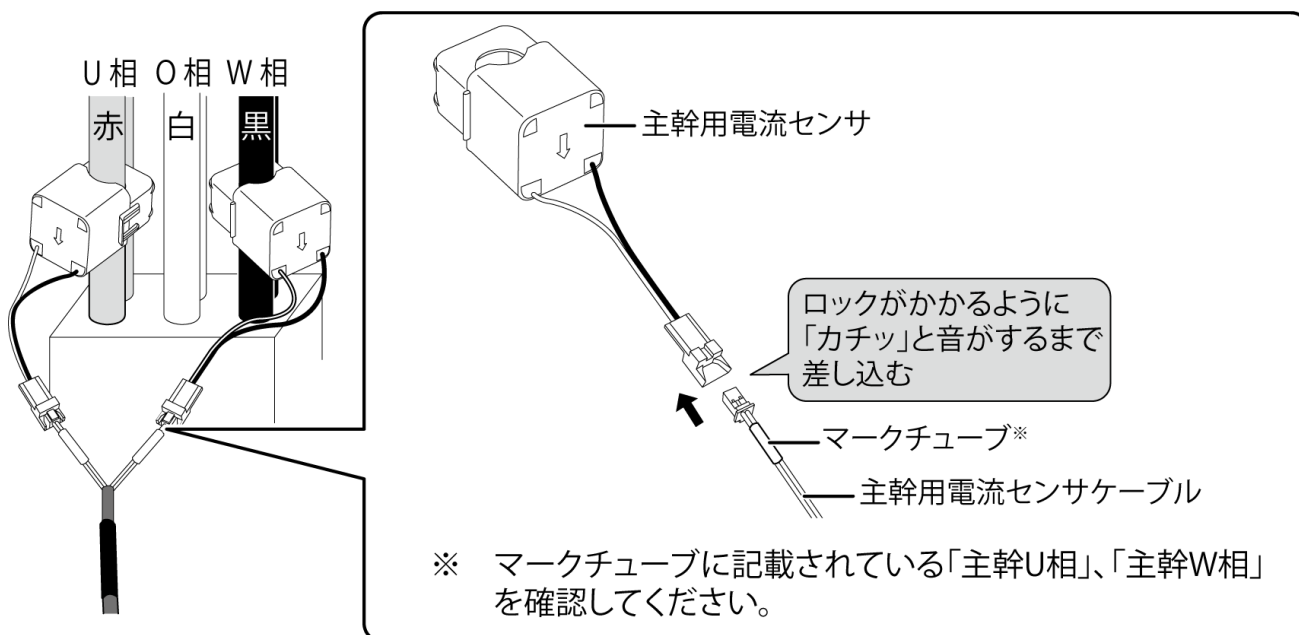
2 主幹漏電ブレーカの1次側に主幹用電流センサを取り付ける

- 太陽光発電用ブレーカより系統側に設置してください。
- ロックがかかるように取り付けてください。 (「カチッ」と音がします)



主幹用電流センサの設置 (つづき)

3 主幹用電流センサに主幹用電流センサケーブルをつなぐ



外部発電機用電流センサ(別売)の設置

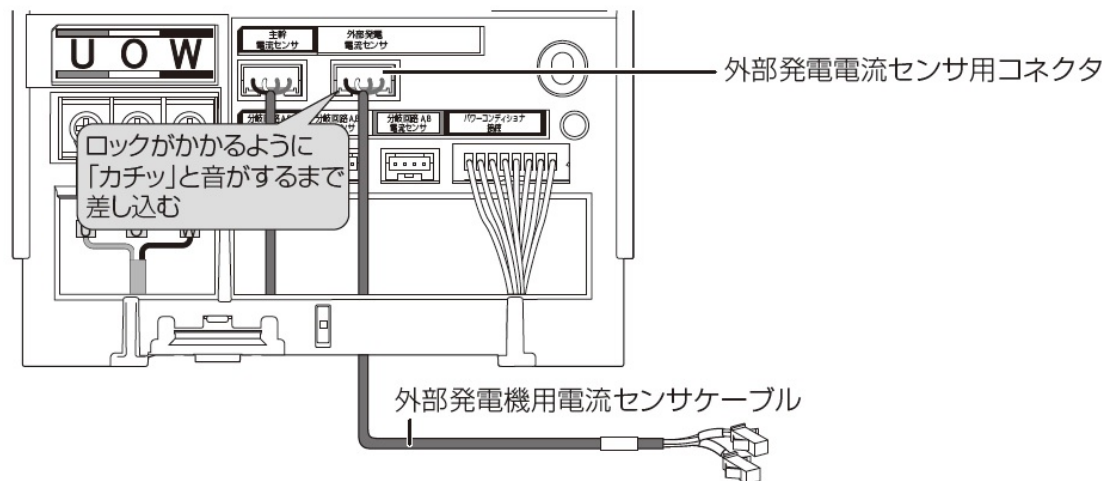
外部発電機（エコウィル、エネファームなど）の発電量を計測する場合に設置します。

外部発電機用電流センサを取り付ける際には、以下の項目に注意してください。

- 外部発電機用電流センサの向き、設置場所を誤ると正確な計測ができません。
- 外部発電機用電流センサは、落としたり衝撃を加えたりすると正確な計測ができなくなります。

1 計測ユニットに外部発電機用電流センサケーブルをつなぐ

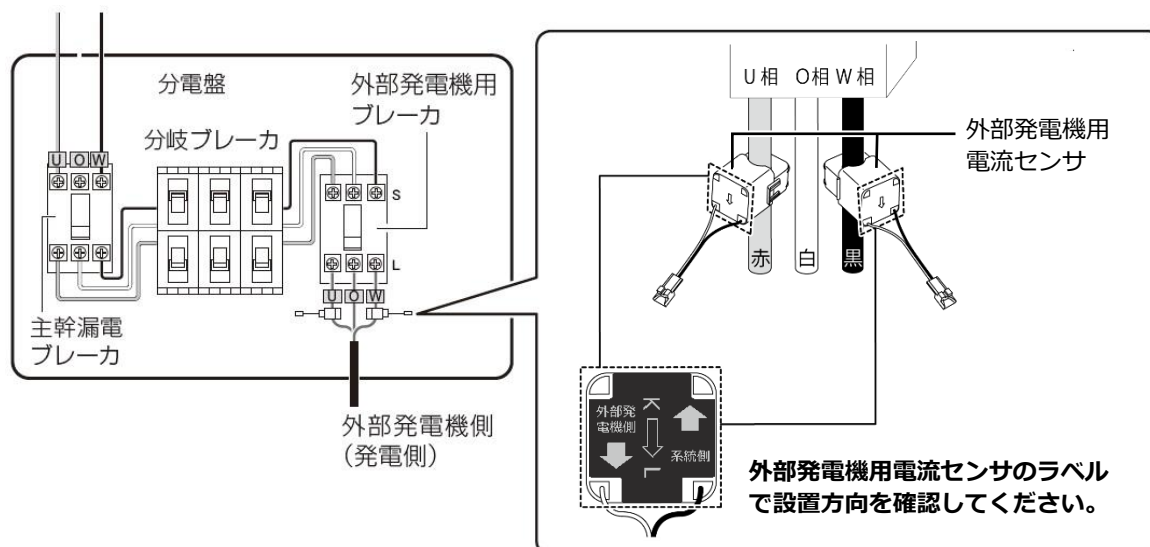
- 外部発電機用電流センサ用コネクタに接続してください。



- 別売の外部発電機用電流センサ、同ケーブルについては P.21 をお読みください。

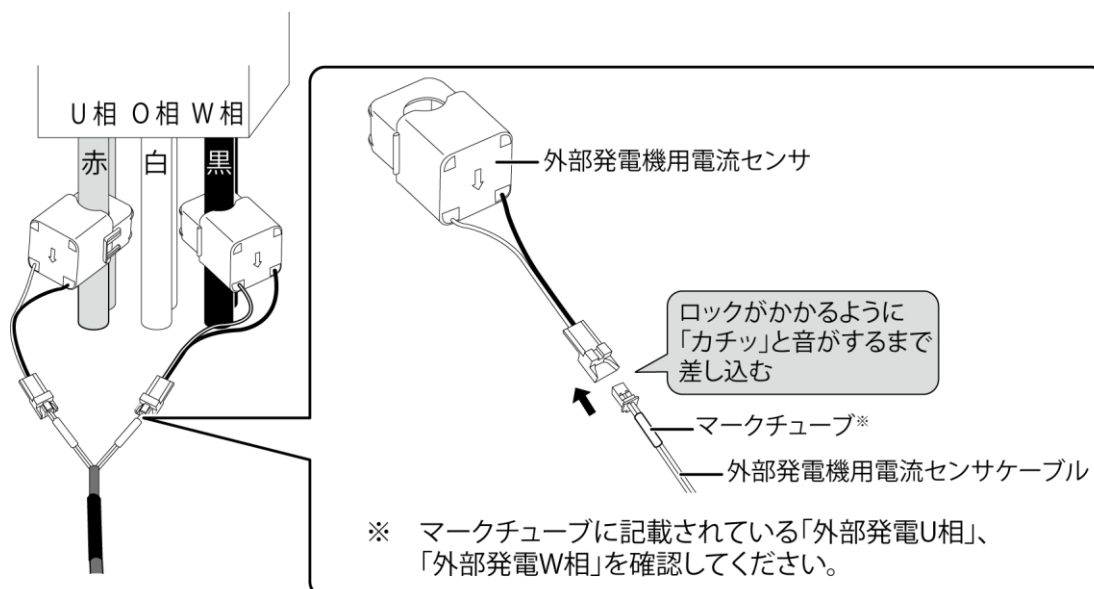
2 外部発電機用ブレーカの2次側に外部発電機用電流センサを取り付ける

- ロックがかかるように取り付けてください。（「カチッ」と音がします）



外部発電機用電流センサ(別売)の設置(つづき)

3 外部発電機用電流センサに外部発電機用電流センサケーブルをつなぐ

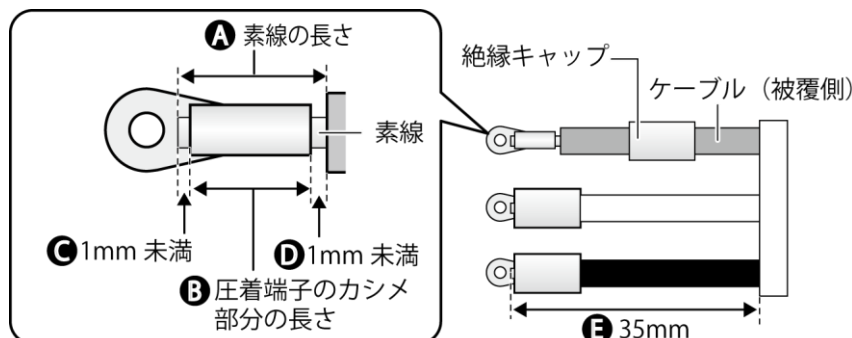


電圧検知用ケーブルの配線

準備

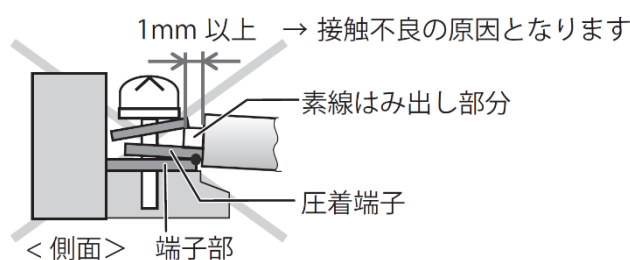
下記ケーブルを工事店様でご用意のうえ、同梱の圧着端子を使って電圧検知用ケーブルを作成してください。
VVF Φ2mm × 3 芯（銅単線）

■ 圧着端子(同梱)とケーブルの加工



- ケーブルのストリップ加工は、以下の寸法になるように行ってください。
 - 素線の長さ (A) :
圧着端子のカシメ部分の長さ (B) + 2mm 未満 (C+D)
 - 素線はみ出し部分 :
配線端子側 (C) : 1mm 未満※
ケーブル被覆側 (D) : 1mm 未満
 - ケーブルの長さ (E) : 35mm
- 絶縁キャップはあらかじめ圧着する前にケーブルに通しておき、圧着後に圧着端子のカシメ部分が隠れるように取り付けてください。

※ カシメ部分から素線を 1mm 以上出すと、圧着端子と端子部に隙間ができ、ねじ緩みや接触不良の要因となります。

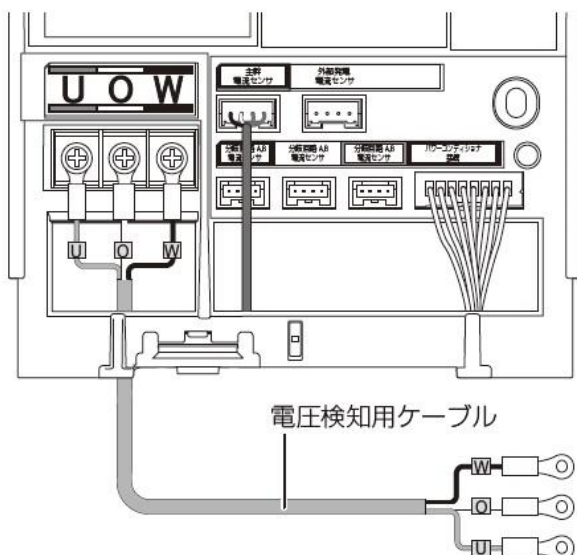


電圧検知用ケーブルの配線 (つづき)

配線

計測ユニットと分電盤の計測ユニット用ブレーカを電圧検知用ケーブルでつなぎます。

1 計測ユニットの端子台U、O、W端子に電圧検知用ケーブルをつなぐ

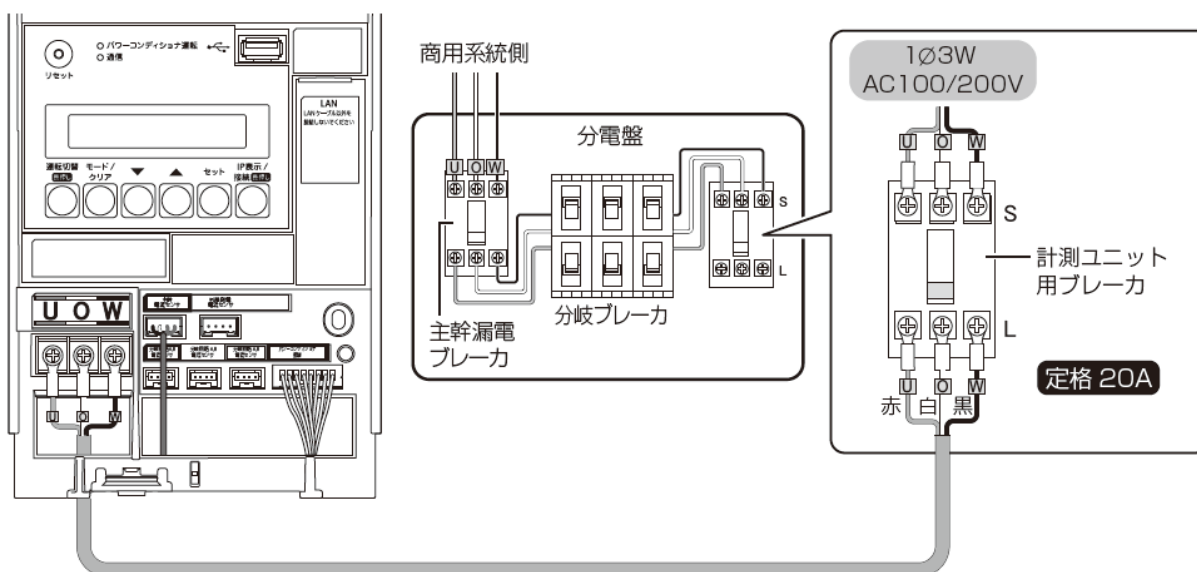


- 配線時の締め付けトルク：
1.4 ± 0.2N・m
- 電動ドライバやインパクトドライバ等の過剰トルクがかかる工具は使用しないでください。

端子部分には、透明なプラスチック端子カバーがついております。取り外しの上、作業を実施してください。また、施工完了後は安全のために、必ず端子カバーを再度取り付けてください。

2 配線先の計測ユニット用ブレーカをオフにする

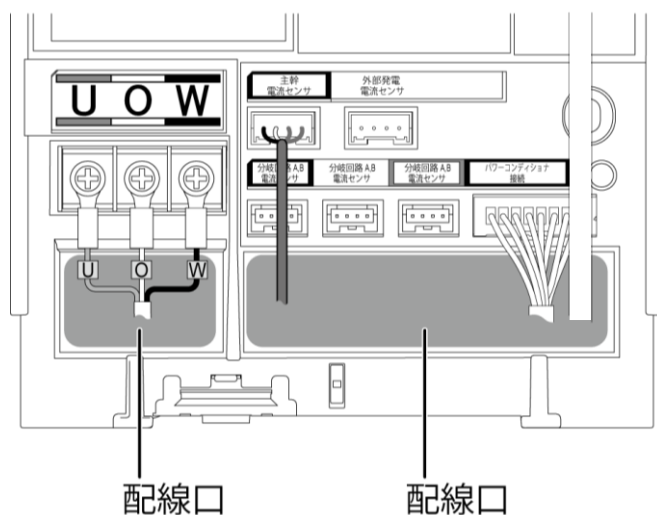
3 計測ユニット用ブレーカの2次側に、電圧検知用ケーブルをつなぐ



設置／配線完了後の作業

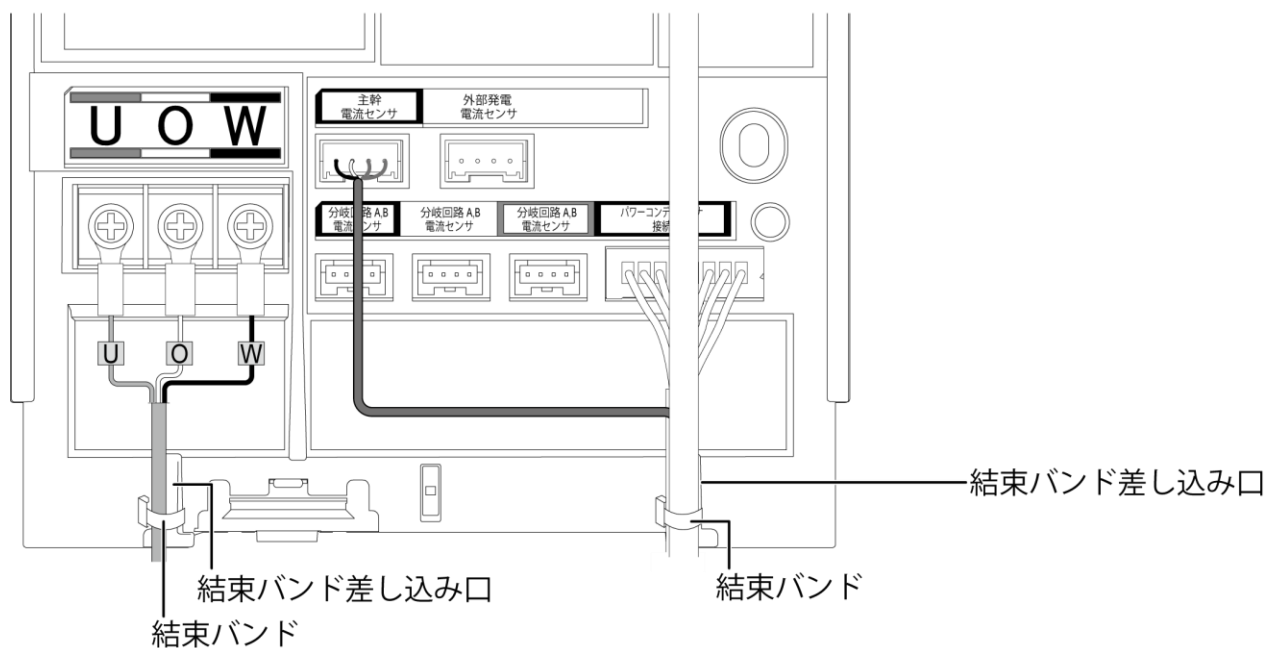
(隠ぺい配線の場合のみ)計測ユニットの配線口をパテ埋めする

- 隠ぺい配線の場合は、ごみ、ほこり、虫などの侵入を防ぐために必ずパテ埋めしてください。



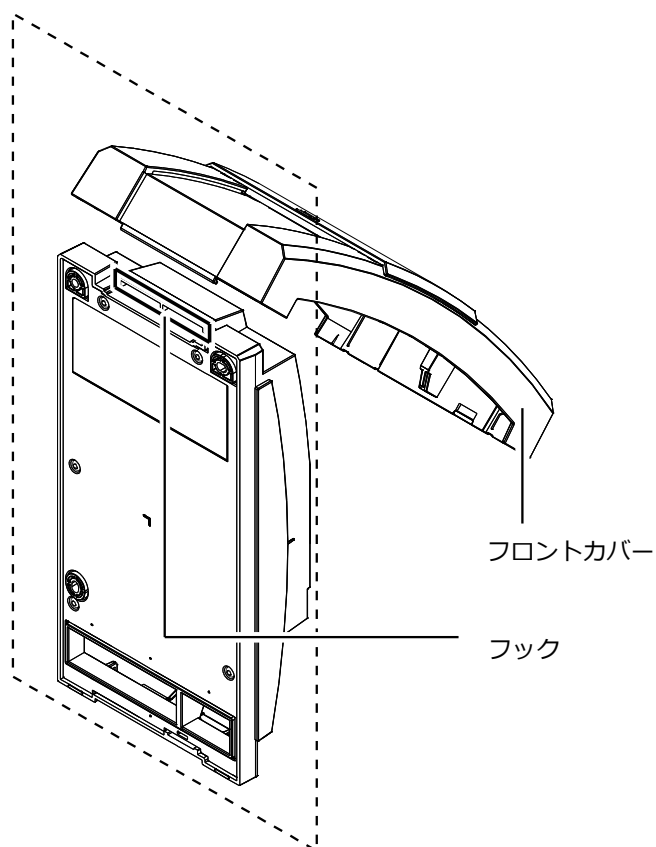
(露出配線の場合のみ)結束バンドでケーブルを固定する

- 露出配線の場合は、必ず配線ケーブルを同梱の結束バンドで結束バンド差し込み口に固定してください。(結束バンドで固定しない場合、ケーブルの引っ張りなどにより、コネクタ抜け等が発生する恐れがあります。)
- 電圧検知用ケーブル(下図左)とその他のケーブルは、決して同じ結束バンドで結束しないでください。(結束すると、電源からのノイズの影響を受けて、極まれに誤差が生じる可能性があります。)

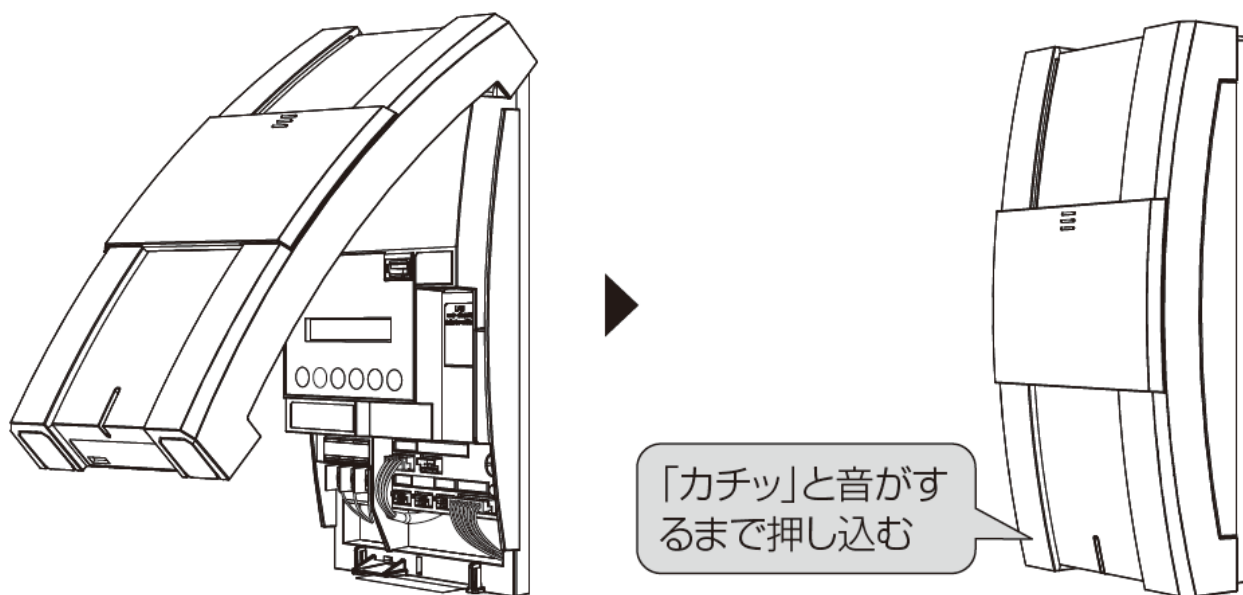


フロントカバーの取り付け

1 フロントカバーを計測ユニット上部のフックに引っ掛ける

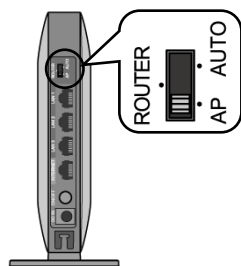


2 フロントカバーを取付ける



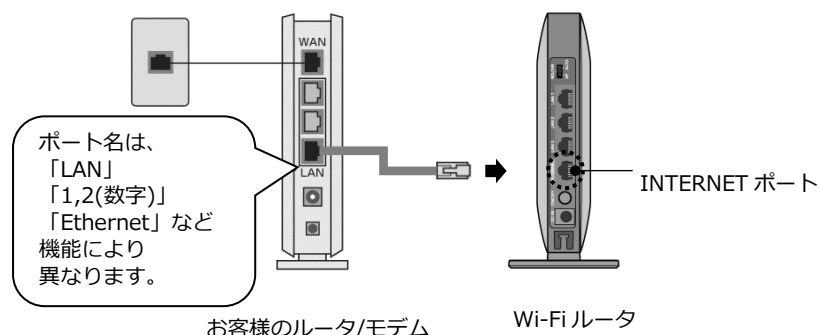
Wi-Fi ルータの設置 (固定回線用の場合)

1 モードスイッチが AP になっていることを確認する



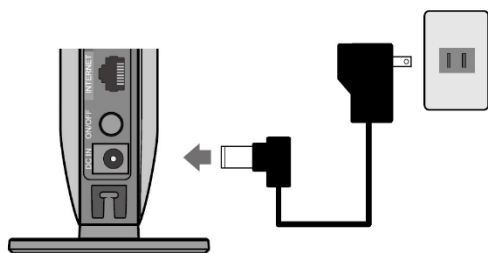
2 Wi-Fi ルータをお客様のルータ/モデムに接続する

- お客様のルータ/モデムの LAN ポートと、Wi-Fi ルータの INTERNET ポート(青)を、付属の LAN ケーブルで接続してください。



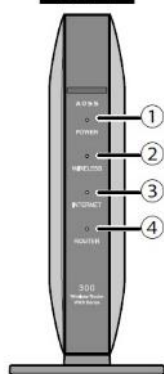
3 AC アダプタの電源をつなぐ

- Wi-Fi ルータに付属の専用 AC アダプタを接続することで、電源が入ります。無線 LAN ルータの POWER ランプが点滅から点灯へ変わるまで待ちます。
※無線 LAN ルータの前面のランプがすべて消えている場合は電源ボタンを押して ON にしてください。(出荷時は ON になっています)



起動した状態(ROUTER 切り替えスイッチが AP の場合)

前面

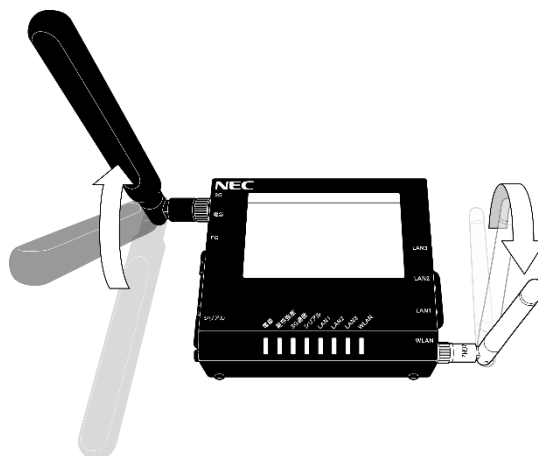


- ①POWER ランプ
 - ②WIRELESS ランプ
 - ③INTERNET ランプ
 - ④ROUTER ランプ
- ※ご使用状況により、ランプ状態が異なります。
- 緑色に点灯
緑色に点灯
緑色に点灯、もしくは消灯※
消灯

3G ルータの設置 (3G 回線セットの場合)

1 3G アンテナ、Wi-Fi アンテナを地面から垂直方向に立てる

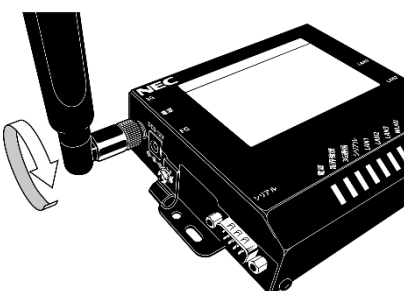
アンテナを地面に対し垂直に立てなかった場合、電波強度が不足し、正しく通信が行えない可能性があります。



2 3G アンテナにゆるみがないか確認する

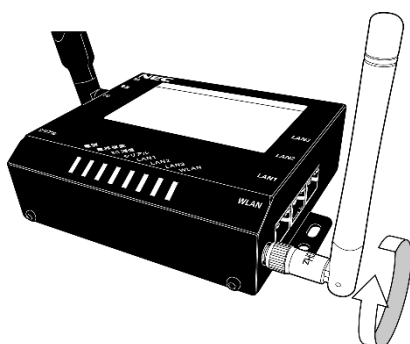
- 3G ルータに取り付けられている 3G アンテナのねじ止め部分にゆるみがないか確認してください。※ゆるみがある場合、通信不良の原因となります。ただし、過度に締め付けすぎると 3G ルータやアンテナの故障につながりますのでご注意ください。

アンテナの根元を持って、矢印の方法に回し、緩みがないか確認してください。

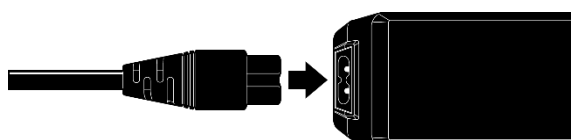


3 Wi-Fi アンテナにゆるみがないか確認する

アンテナの根元を持って、矢印の方法に回し、緩みがないか確認してください。



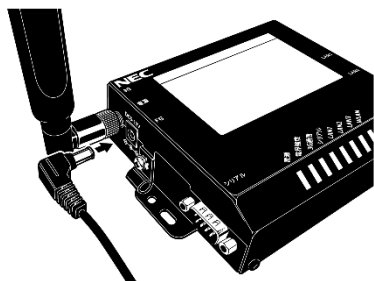
4 AC アダプタと電源プラグをつなぐ



3G ルータの設置 (3G 回線セットの場合) (つづき)

5 3G ルータと AC アダプタをつなぐ

- 3G ルータに付属の専用 AC アダプタを接続してください。



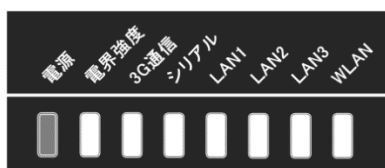
6 AC アダプタのプラグをコンセントにつなぐ

- AC アダプタのプラグをコンセントに接続してください。

3G ルータの設置 (3G 回線セットの場合) (つづき)

7 3Gルータが起動したことを確認する

- 約 2 分程度で起動は完了します。
以下のランプ状態になっていることを確認する。
 - 電源ランプ：緑色点灯
 - 電界強度ランプ：消灯以外
(電波強度が良好な順に緑色点灯⇒緑色点滅⇒橙色点灯⇒橙色点滅⇒赤色点灯⇒赤色点滅)
 - 3G 通信ランプ：緑色点灯
 - WLAN ランプ：緑色点灯
 - LAN ランプ：消灯 (無線接続時)



- ① 電源投入時
・電源ランプのみ緑色点灯



- ② 約 10 秒後
・全てのランプが緑色点灯



- ③ 約 15 秒後
・電源ランプは緑色点灯
・3G 通信は赤色点滅



- ④ 約 1 分 30 秒後
・電源ランプは緑色点灯
・3G 通信ランプは緑色点灯
・WLAN ランプは緑色点灯



- ⑤ 約 2 分後 起動完了
・電源ランプは緑色点灯
・電界強度ランプは電波状況に応じた状態を表示
・3G 通信ランプは緑色点灯
・WLAN ランプは緑色点灯

名称	状態	表示
電界強度	電界レベル5 (強)	緑色点灯
	電界レベル4	緑色点滅
	電界レベル3	橙色点灯
	電界レベル2	橙色点滅
	電界レベル1	赤色点灯
	電界レベル0 (弱)	赤色点滅

※電界レベル 1 以下の場合、
安定して通信を行えません。
3G ルータの設置位置を変更してください。

計測ユニットの起動

● 起動前の確認

起動を始める前に、以下の項目を確認してください。

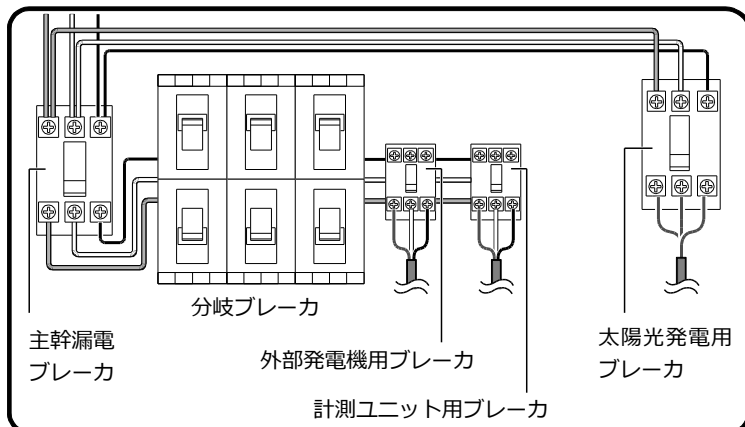
- **本製品(計測ユニット、計測ユニット用ブレーカ、3GルータもしくはWi-Fiルータなど)の設置・電源配線が完了している**
- **接続しているパワーコンディショナの施工が完了している**
パワーコンディショナの施工については、パワーコンディショナの施工マニュアルをお読みください。
- **パワーコンディショナが起動できる日射量がある**
初期設定の際はパワーコンディショナと通信を行うため、パワーコンディショナが起動できる日射量があるとき(早朝・夕方を除く、照度が安定している状態)に、本製品の初期設定を行ってください。太陽光発電ブレーカはオフの状態です。

● 起動する

システムを起動する前に、以下の状態を確認してください。

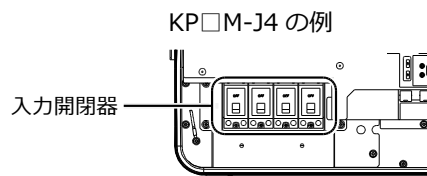
- 3Gルータ、もしくはWi-Fiルータが起動しているか
- パワーコンディショナのすべての入力開閉器(または接続箱のすべての開閉器)が**オフ**になっているか*
- 太陽光発電用ブレーカが**オフ**になっているか*
- パワーコンディショナの運転スイッチが**オフ**になっているか*
- 計測ユニット用ブレーカが**オフ**になっているか。
- (外部発電機用電流センサ(別売品)が設置されている場合のみ)
外部発電機の運転スイッチが**オフ**になっているか

分電盤の例



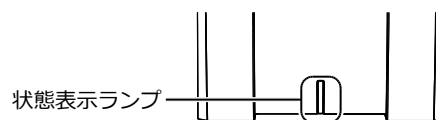
1 接続箱のすべての開閉器(またはパワーコンディショナの入力開閉器)をオンにする*

- パワーコンディショナの表示部に「E1-0」が表示され、パワーコンディショナが起動します。



2 計測ユニット用ブレーカを ON にする

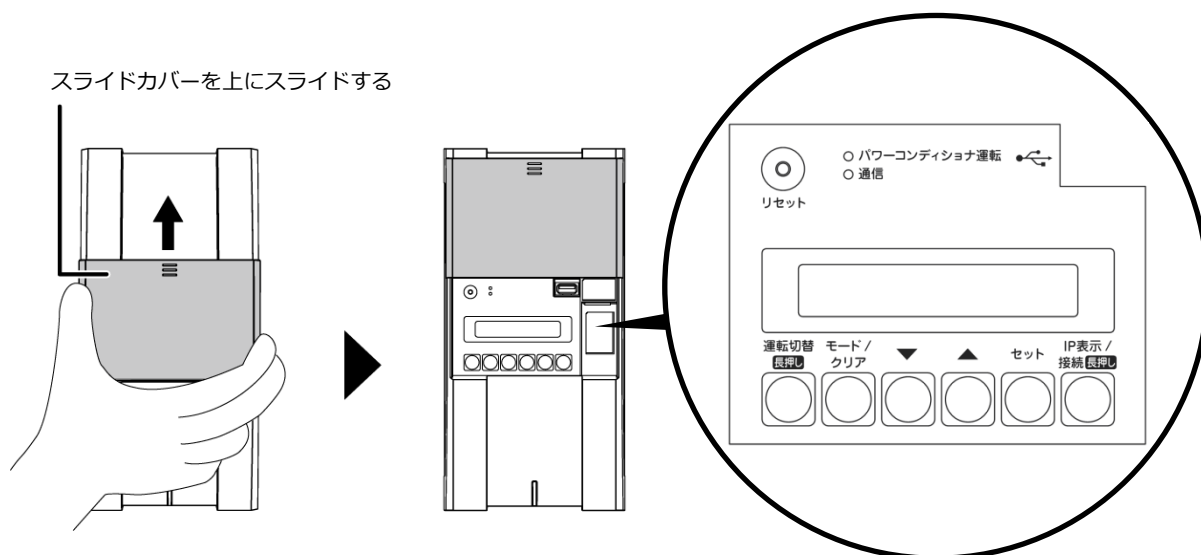
- 計測ユニットが起動を開始します。
- 起動すると、計測ユニットの状態表示ランプが緑色点滅します。
- 3GルータのWLANランプ、もしくはWi-FiルータのWIRELESSランプが緑点灯します。



* パワーコンディショナが複数台設置されている場合は、すべてのパワーコンディショナで確認、操作を行ってください。

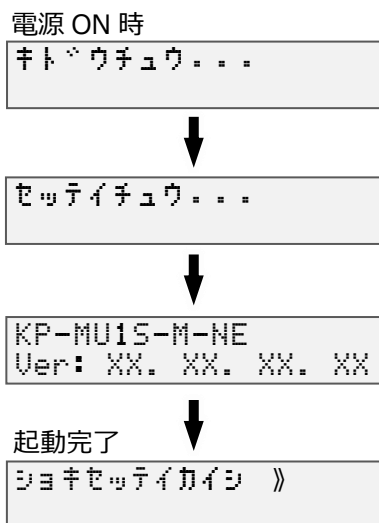
計測ユニットの起動(つづき)

3 計測ユニットのスライドカバーを開ける



4 計測ユニットの表示部で、起動状態を確認する

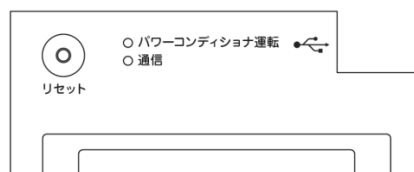
- 計測ユニット用ブレーカを ON にしたあと、約 1 分で起動完了します。
- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。
- 計測ユニットの表示部に「シヨキセツテイカイシ」と表示されていることを確認します。



計測ユニットの起動(つづき)

●電波強度を確認する

- 1 計測ユニットの通信ランプが
 橙色点灯していることを確認し、
 「シヨキセツテイカイシ 》」が表示されている
 状態で、IP 表示/接続ボタンを押す



- 2 「ムセン IP アドレス *」が表示されている
 状態で、▼/▲ボタンを押して、
 「デンパキョウド *」を表示させます



- 実際の IP アドレスは機器により異なります。

- 3 電波強度レベルを確認する

- レベルが 1 と表示される際には、レベルが 2 以上になるまでルータの距離を近づけてください。
- 計測ユニットの電源を投入してすぐに確認を行うと、レベル 0 が表示されることがあります。その場合は▼/▲ボタンを押して、画面を切り替えてから再度確認してください。



- 4 モード/ クリアボタンを押す



初期設定

● 基本情報を設定する

1 「シヨキセツテイカイシ」が表示されている状態でセットボタンを押す



2 ▼ / ▲ボタンで買取モードの余剰を選び、セットボタンを押す

- 「ヨジョウ」を選んでください。



3 ▼ / ▲ボタンで外部発電計測の有無を選び、セットボタンを押す

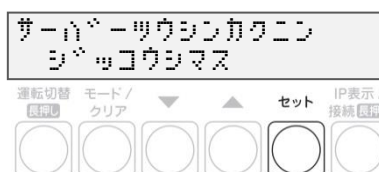
- 「アリ」または「ナシ」を選んでください。
外部発電機用電流センサ(別売)を使用される場合のみ「アリ」を選択して下さい。



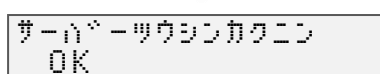
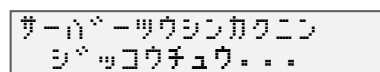
初期設定(つづき)

●通信テストを実施する

1 「サーバーツウシンカクニン ジッコウシマス」が表示されている状態で、セットボタンを押す



2 「サーバーツウシンカクニン OK」を確認し、セットボタンを押す

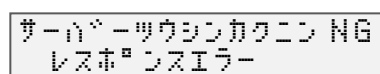


手順 3 へ

- 通信テストが成功すると、「サーバーツウシンカクニン OK」が表示されます。

(「サーバーツウシンカクニン NG」と表示された場合)

- 表示によって、以下の原因が考えられます。
 ジョウホウツウシンエラー (通信ができない)
 エラージュシン (サーバからの異常を受信)
 レスポンスエラー (その他異常)
- 通信確認が成功しないと次の設定へは進めません。
 セットボタンを押し、
 手順 1 に戻って再度設定してください。



手順 1 へ戻る

3 日時を確認する

- 時刻が表示されるので、現在時刻であることを確認してください。
 セットボタンを押し、
 「●パワーコンディショナを登録する」に進んでください。



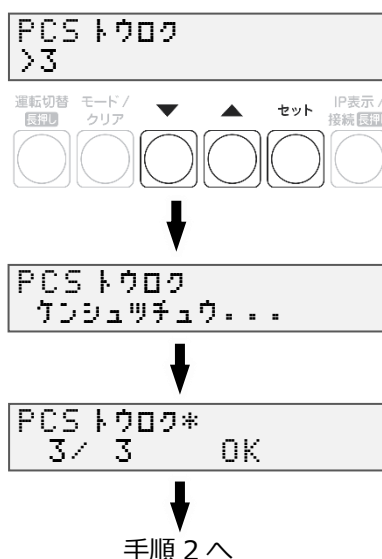
初期設定(つづき)

● パワーコンディショナを登録する

1 ▼ / ▲ボタンでパワーコンディショナの登録台数(最大6台)を選び、セットボタンを押す

- 接続されているパワーコンディショナを自動で検索します。自動検索後、「検出台数 / 登録台数」が表示され、OK と表示されることを確認してください。
- (例：パワーコンディショナを3台設置している場合) 「PCS トウロク ケンシュツチュウ...」の表示後、「PCS トウロク 3/3 OK」と表示されます。

例) パワーコンディショナを3台設置している場合

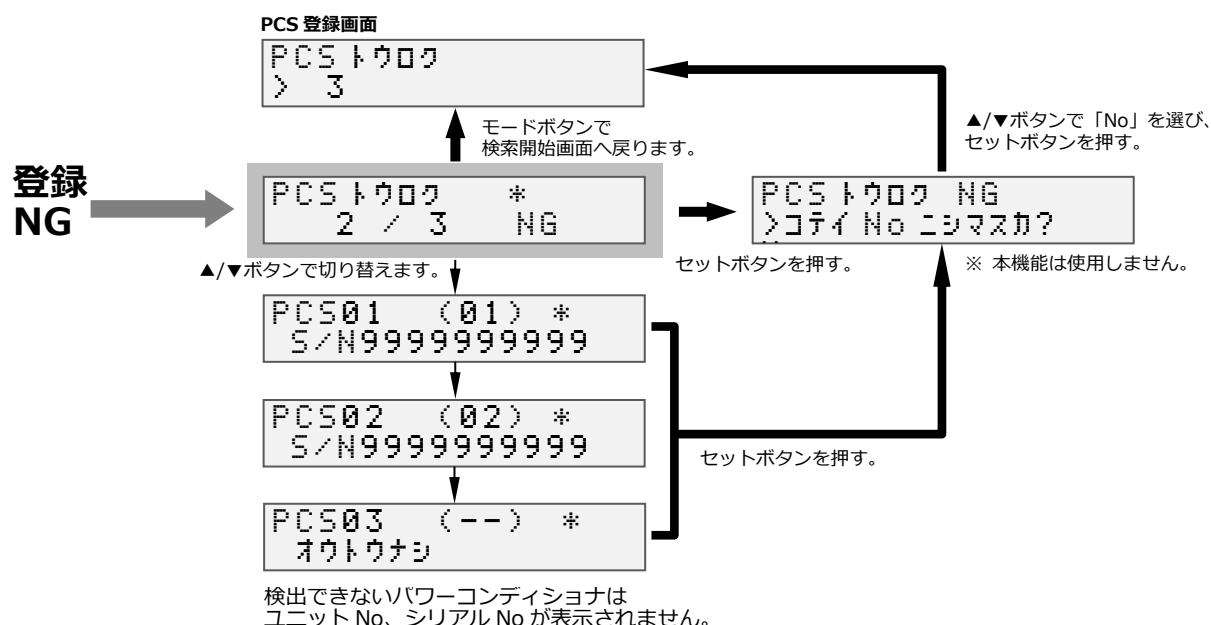


- 「NG」が表示されている場合は、パワーコンディショナの登録台数と検出台数に差異があります。下記を確認した後、モード/クリアボタンを押して、もう一度設定してください。

- パワーコンディショナの台数の設定が正しいか
- 計測ユニットの配線が正しいか (P.26、P.29～31)
- パワーコンディショナの配線・設定が正しいか (P.29～31)
- パワーコンディショナが起動しているか (P.44)
- パワーコンディショナのユニット No.が重複していないか (参照：パワーコンディショナの施工マニュアル)



“PCS トウロク NG”表示時の再設定手順



初期設定(つづき)

2 ▼ / ▲ボタンで各パワーコンディショナの パワコンNo.、ユニットNo.、 シリアルNo.(製造番号)を確認して、 セットボタンを押す

- ▼ / ▲ボタンで検索されたパワーコンディショナのシリアルNoを確認できます。

- ・パワコン No ... 計測ユニットが割り当てた番号
- ・ユニット No ... 施工前にパワコンに設定した番号

パワコン No ユニット No

PCS02 (02) *
S/N9999999999

パワコンのシリアル No

■サポートメール

パワコンエラー検知のご報告 (10/31)

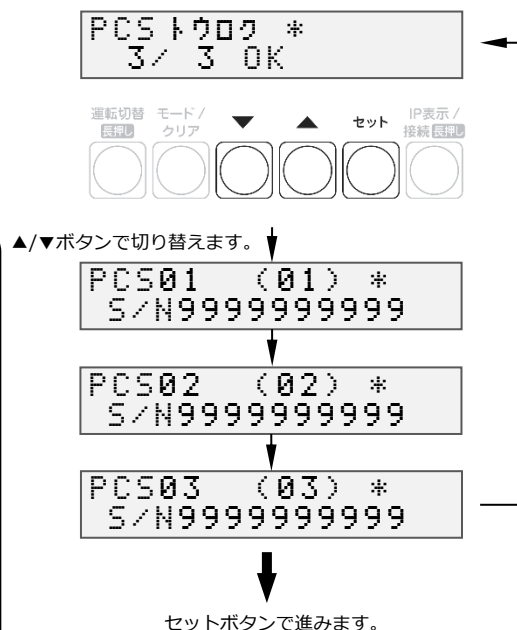
株式会社○○○○ 様

日頃から「エコめがね i」サービスをご愛顧頂き、誠にありがとうございます。
パワコンエラーを検知しましたのでご報告致します。
※ 下記エラーは現地対応が必要と思われるエラーを1時間に1回確認してお知らせいたします。
※ エラー情報内の日付は、パワコンのエラー発生時刻を表示しています。
▽パワコンエラー検知(時)に関するヘルプ
http://partner.eco-megane.jp/bhowtouse/bhelp07_02.html

■商品 ID : 9002-241-4860■
 施主様名 (MEMO) : スマイル太郎
 設備名 (MEMO) : スマイル様滋養発電所
 設置先住所 : 滋賀県長浜市 XXX 8-8-8
 ■PCS#02 / #02■

PCS#02 / #02
パワコン No / ユニット No

2015/10/31 10:22 E3-4 : パワーコンディショナーの内部温度が高くなっています。

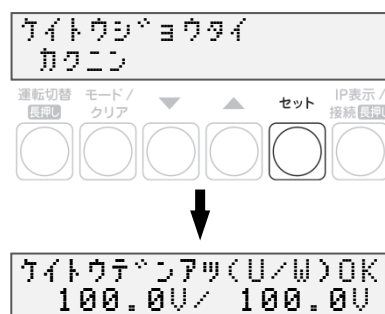


3 ▼ / ▲ボタンで「No」を選び、セットボタンを押す。

- 本機能は使用しません。



4 計測ユニットの電源電圧を確認し、セットボタンを押す



初期設定(つづき)

●主幹用電流センサを設定する

- 1 「ケイトウデンアツ」が表示されている状態で、
セットボタンを押す

ケイトウデンアツ(U/W)OK
100.00V / 100.00V



2 U相/W相に電流を流す

- 主幹計測用電流センサの方向の確認を開始する前に、U相側、W相側のコンセントにそれぞれ150W以上の電化製品(掃除機、ドライヤーなど)を接続し、運転させてください。
※手順6終了後は、運転を停止してください。

- 3 「シュカンケイソクセンサ ホウコウカクニン」
が表示されている状態で、セットボタンを押す

シュカンケイソクセンサ
ホウコウカクニン



- 4 「デンリョク(ハツデン)OK」と表示され、
パワーコンディショナ/外部発電機※の
発電電力が「0W」になっていることを確認し、
▼ / ▲ボタンを押す

デンリョク(ハツデン)OK*
PCS: 0W EX: 0W



- ※「●基本情報を設定する」(P.47)の手順3で、外部発電「アリ」を選んだ場合のみ表示されます。
「ナシ」を選んだ場合は、外部発電機の発電電力は表示されません。

- 5 「ケイトウデンリョク OK」と表示され、
U相、W相共に「+150W」以上になっている
ことを確認し、セットボタンを押す

ケイトウデンリョク OK*
U: +400W W: +398W



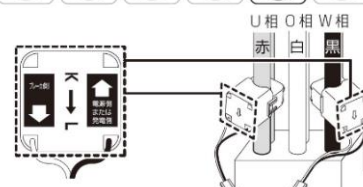
- 150W以上の消費電力の機器を用意できていない場合は、この画面で方向確認ができませんので、主幹用電流センサの設置状態を目視で確認(主幹用電流センサの設置、P.32~33)し、セットボタンを押してください。
- 正の値で150W未満の数値が出ている場合は、U相側、W相側のコンセントに電化製品を追加してください。

- 6 「シュカンケイソクセンサ OK」と表示されている
ことを確認して、セットボタンを押す

シュカンケイソクセンサ
OK



- 「ハンテイデキズ」と表示された場合もセットボタンを押して、次の手順に進んでください。
- 「ギャクセツゾク」と表示された場合は、主幹用電流センサの設置方向が間違っています。設置方向を確認(P.32~33)してください。「ギャクセツゾク」と表示された状態でモード/クリアボタンを2回押すと、手順3に戻りますので、再度設定を行ってください。



初期設定(つづき)

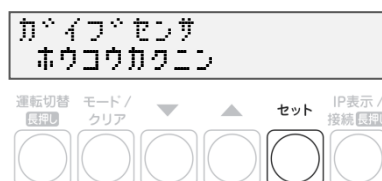
●外部発電機用電流センサを設定する

「●基本情報を設定する」(P.47)の手順3で、外部発電を「ナシ」を選んだ場合は、次のページの「●分岐計測用電流センサを設定する」に進んでください。

1 電流センサ方向確認の為、外部発電機を運転させ、U相/W相に電流を流す

- 外部発電機（エコウィル、エネファームなど）の運転スイッチをオンにして、発電状態にしてください。
- U相側、W相側のコンセントにそれぞれ150W以上の電化製品（掃除機、ドライヤーなど）を接続し、運転させてください。
※手順4終了後は、電化製品、外部発電機の運転を停止してください。

2 「ガイブセンサ ホウコウカクニン」と表示されている状態でセットボタンを押す



3 「ガイブハツデン OK」と表示され、U相、W相共に「+150W」以上になっていることを確認して、セットボタンを押す

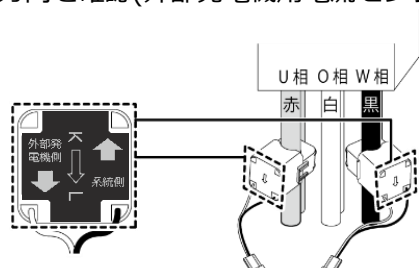


- 外部発電機を発電状態にできていない場合や、150W以上の消費電力の機器を用意できていない場合は、この画面で方向確認ができませんので、外部発電機用電流センサの設置状態を目視で確認(外部発電機用電流センサ(別売)の設置、P.34~35)し、セットボタンを押してください。
- 正の値で150W未満の数値が出ている場合は、U相側、W相側のコンセントに電化製品を追加してください。

4 「ガイブセンサ OK」と表示されていることを確認して、セットボタンを押す



- 「ハンテイデキズ」と表示された場合もセットボタンを押して、次の手順に進んでください。
- 「ギャクセツゾク」と表示された場合は、外部発電機用電流センサの設置方向が間違っています。設置方向を確認(外部発電機用電流センサ(別売)の設置、P.34~35)してください。



初期設定(つづき)

●分岐計測用電流センサを設定する

1 「ブンキセンサ >ダイスウ? 0」が表示されていることを確認して、
セットボタンを押す

- 「0」を選んでください。



●パルス設定を実行する

1 「パルスセッテイ」が表示されている状態で、
「ナシ」が表示されていることを確認し、
セットボタンを押す



初期設定(つづき)

●システム情報の確認を行う

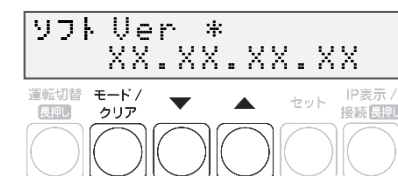
- 1 「システムジョウホウカクニン >ヒョウジシマスカ? Yes」が表示されている状態で、セットボタンを押す



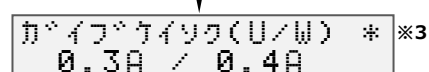
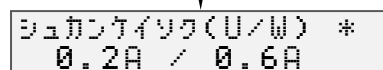
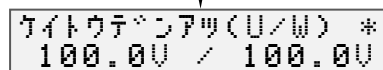
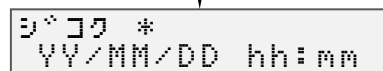
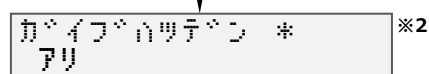
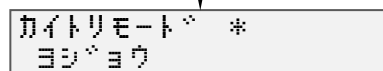
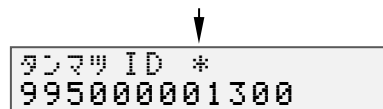
- 2 ▼ / ▲ボタンでシステム情報を表示させ、設定した内容が正しいか確認する

- 右は表示例になります。

- ※ 1 「PCS トウロクダイスウ」の表示中にセットボタンを押すと P.49~50 で登録した PCS の情報が表示されます。
▼ / ▲ボタンで各パワーコンディショナの設定を確認できます。
モード/クリアボタンを押すと「PCS トウロクダイスウ」の表示に戻ります。
- ※ 2 初期設定の設定内容に応じて、アリ/ナシが表示されます。
- ※ 3 初期設定で「ガイブハツデン >アリ」で設定した場合に表示されます。ナシの場合には、該当の項目は表示されません。



▲/▼ボタンで切り替えます。



モード/クリアボタンで進みます

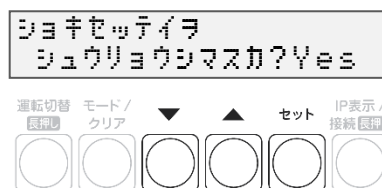
- 3 モード/クリアボタンを押す



初期設定(つづき)

●初期設定を終了する

- 1 「シヨキセツテイヲシュウリョウシマスカ? No」が表示されている状態で、▼ / ▲ボタンで「Yes」を選び、セットボタンを押す



- 設定をやり直す場合は、▼ / ▲ボタンで「No」を選び、セットボタンを押してください。
「●システム情報の確認を行う」(P.54)の手順 1 の画面まで戻ります。
以降は、モードボタンを繰り返し押して、設定したい項目まで戻ってから設定をやり直してください。
- 以上で設置作業、および初期設定は終了です。
これより計測を開始します。

接続しているパワーコンディショナが KP□M シリーズ、または KP□R シリーズの場合は、続いてパワーコンディショナの動作確認をおこないます。

パワーコンディショナの動作確認

接続しているパワーコンディショナがKP□Mシリーズ、またはKP□Rシリーズの場合、計測ユニットからパワーコンディショナの運転停止/再開の切り替えが可能です。
 連系を行う前に、本機能が正常に動作することを確認してください。

- 太陽電池が発電中に確認を行ってください。
- 接続箱のすべての開閉器（またはパワーコンディショナの入力開閉器）、太陽光発電用ブレーカおよびパワーコンディショナの運転スイッチがオフの状態を確認を始めてください。*
- 停電用コンセントに電気製品を接続せずに動作確認を行ってください。
- パワーコンディショナを複数台設置している場合は、全台一括操作となります。個別にパワーコンディショナを操作することはできません。

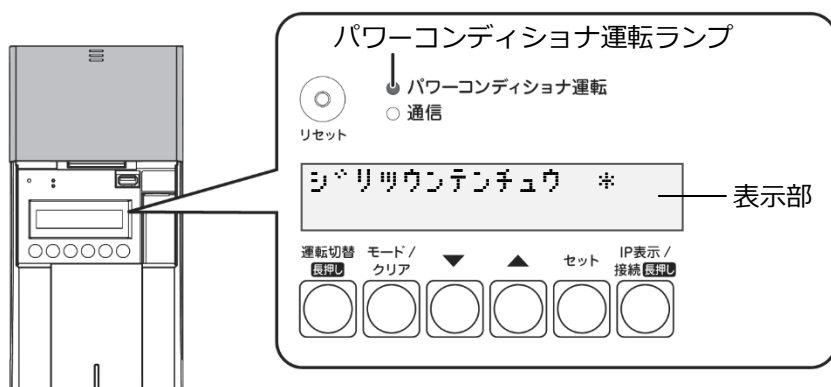
1 接続箱のすべての開閉器(またはパワーコンディショナの入力開閉器)をオンにする*

- パワーコンディショナの表示部に「E1-0」が表示されることを確認してください。
 (KP□R では、異常ランプの点滅でも起動を確認できます)

2 パワーコンディショナの運転スイッチをオンにする

- パワーコンディショナが自立運転を開始します。

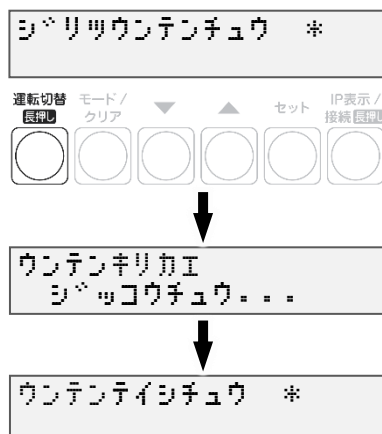
3 計測ユニットを確認する



- 計測ユニットのスライドカバーを開けてください。
- 計測ユニットの表示部に「ジリツウンテンチュウ」が表示され、パワーコンディショナ運転ランプが橙色点灯します。
- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。

4 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続けて、パワーコンディショナの運転を停止する

- 計測ユニットの表示部に「ウンテンキリカエ ジッコウチュウ...」、「ウンテンテイシチュウ」と表示され、パワーコンディショナの運転が停止することを確認してください。
 (パワーコンディショナ運転ランプが赤色点灯します)



* パワーコンディショナが複数台設置されている場合は、すべてのパワーコンディショナで確認、操作を行ってください。

パワーコンディショナの動作確認(つづき)

5 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続けて、パワーコンディショナの運転を開始する

- パワーコンディショナが自立運転を開始し、計測ユニットの表示部に「ジリツウンテンキリカエ ジッコウチュウ...」、「ジリツウンテンチュウ」と表示されることを確認してください。



6 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続けて、パワーコンディショナの運転を停止する

- 計測ユニットの表示部に「ウンテンテイシ ジッコウチュウ...」、「ウンテンテイシチュウ」と表示され、パワーコンディショナの運転が停止します。
(パワーコンディショナ運転ランプが赤色点灯します)



7 パワーコンディショナ本体の運転スイッチをオフにする

- パワーコンディショナ本体の運転スイッチがオフになっているときは、計測ユニットから運転操作はできません。
- 施工完了直後から系統連系が可能な場合は、運転スイッチはオンにしてください。
- パワーコンディショナが複数台設置されている場合は、すべてのパワーコンディショナで操作を行ってください。

以上で、システムの設置作業はすべて終了です。

● 連系を行わない場合

計測ユニット用ブレーカ、接続箱のすべての開閉器（またはパワーコンディショナの入力開閉器）、太陽光発電用ブレーカおよびパワーコンディショナの運転スイッチを**オフ**にしてください。
Wi-Fi ルータ、もしくは 3G ルータの AC アダプタを電源コンセントから外してください。

● 連系を行う場合

計測ユニット用ブレーカ、接続箱のすべての開閉器（またはパワーコンディショナの入力開閉器）、太陽光発電用ブレーカおよびパワーコンディショナの運転スイッチを**オン**にしてください。
Wi-Fiルータ、もしくは3GルータのACアダプタを電源コンセントにつないでください。

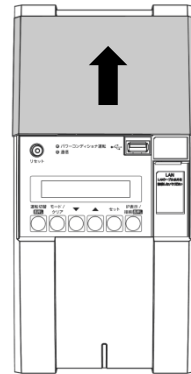
取扱方法

表示部の見方

計測ユニットの表示部で現在の発電電力、パワーコンディショナの運転モード、エラーコードを確認できます。

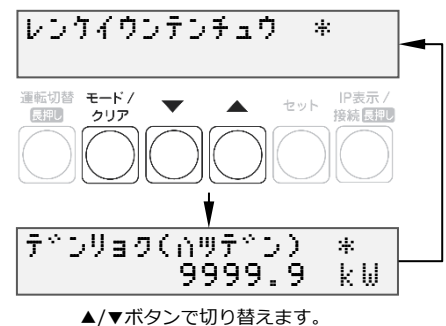
1 計測ユニットのスライドカバーを矢印の方向にスライドさせる

- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。
- 表示部の確認や操作が終わりましたら、スライドカバーは閉めてください。

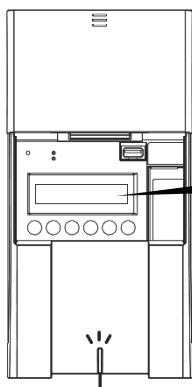


2 ▼ / ▲ボタンを押して表示を切り替えます。

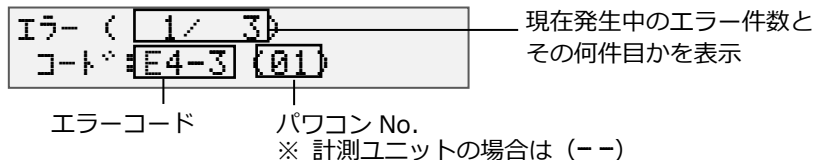
- ボタンを押すごとに、下記のようにメイン画面が表示されます。



- 異常が発生している場合、下記のように表示部でエラーを確認できます。



状態表示ランプ



スライドカバーを開けると、表示部に現在発生中のエラーが表示されています。

- 現在発生中のエラーが複数表示されている場合は、▼ / ▲ボタンで表示を切り替えることができます。(最大25件まで)
- モード/クリアボタンを押すと、通常メイン画面が表示されます。もう一度表示するには、モード/クリアボタンを2秒以上押ししてください。
- エラーコードの示すエラー内容については「エラーコード一覧」(P.85)で確認してください。

- 計測ユニットの状態表示ランプでも異常をお知らせします。

- 緑色点灯：通常動作中
- 緑色点滅：初期設定完了前
- 橙色点滅：停電中
- 赤色点灯：自動復旧が不可能な異常発生中
- 赤色点滅：自動復旧の可能性のある異常発生中
- 消灯：全パワーコンディショナが夜間発電停止状態かつ、無操作時

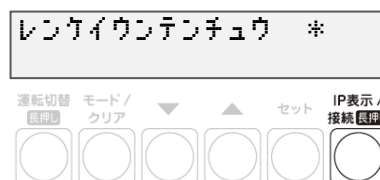
電波強度を確認する

●電波強度を確認する

計測ユニットとルータ間での無線通信の電波強度レベルを確認できます。
有線接続の設定(P.66)を行った場合は、電波強度レベルは確認できません。

1 計測ユニットの表示部に「レンジイウンテン チュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している 状態で、IP 表示/接続ボタンを押す

- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。



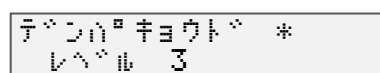
2 「ムセン IP アドレス *」が表示されている 状態で、▼/▲ボタンを押して、 「デンパキョウド *」を表示させます

- 実際のアドレスは機器により異なります。
- 有線接続の設定を行った場合、「デンパキョウド *」の項目は表示されません。



3 電波強度レベルを確認する

- レベルが 1 と表示される際には、レベルが 2 以上になるまでルータの距離を近づけてください。
電波強度レベルが改善されない場合は、計測ユニットとルータ間を LAN ケーブルで接続してください。(P.66)



4 モード/ クリアボタンを押す



疎通確認を実施する

計測ユニットとサーバとの疎通を確認できます。

●実施する前に、ルータが正常に起動していることを確認(P.40、43)してください。

1 計測ユニットの表示部が消灯している場合は
いずれかのボタンを押して表示部を点灯させ、
モードボタンを押す



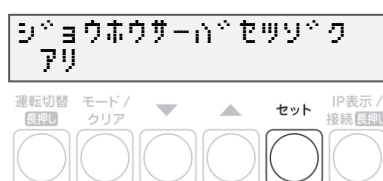
2 「ユーザセッテイ *」が表示されていることを
確認し、▼ / ▲ボタンで
「システムセッテイ 》」を選び、
セットボタンを押す



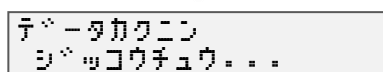
3 ▼ / ▲ボタンで「ジョウホウサーバカクニン」
を選び、セットボタンを押す



4 「ジョウホウサーバセツゾク アリ」の表示で、
セットボタンを押す



5 ▼ / ▲ボタンで「データカクニン」を選び、
セットボタンを押す



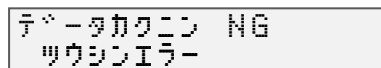
疎通確認を実施する(つづき)

6 疎通結果が OK であることを確認する

- モードボタンを 5 回押して、メイン画面に戻って終了してください。



- **データカクニン NG ツウシンエラーと表示された場合**
インターネットへ接続できておりません。
Wi-Fi ルータもしくは 3G ルータの LED ランプを確認し、動作状態を確認してください。
(固定回線用： P.15、40
3G 回線セット： P.16、43)



<原因>

- ルータの起動が完了していない可能性があります。
- ルータに異常が発生している可能性があります。
- 3G 電波エリアの圏外である可能性があります。(3G 回線セットの場合)

パワーコンディショナを操作する

接続しているパワーコンディショナがKP□MシリーズまたはKP□Rシリーズの場合、計測ユニットからパワーコンディショナを操作して、連系運転/自立運転/運転停止の切り替えができます。

- パワーコンディショナを複数台設置している場合は、全台一括操作となります。個別に操作することはできません。

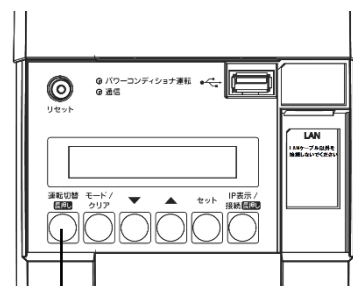
お使いのパワーコンディショナがKP□Kシリーズの場合、計測ユニットからパワーコンディショナの操作はできません。パワーコンディショナから操作してください。

● 通常時の使い方(連系運転)

通常時(連系運転)の場合、計測ユニットでの操作は不要です。

■ パワーコンディショナの運転を停止させるには 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押す

- パワーコンディショナ運転ランプが赤色に点灯し、表示部に「ウンテンテイシチュウ」と表示され、パワーコンディショナが停止します。
- 停止操作をすると、パワーコンディショナは停止状態を保つため、自動的に起動しません。(例えば、停止操作後に日が暮れた場合、翌朝もパワーコンディショナは停止状態を継続します。)
- 運転を再開させるためには、運転開始操作をしてください。



運転切替ボタン

■ パワーコンディショナの運転を再開させるには 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押す

- パワーコンディショナ運転ランプが緑色に点灯し、表示部に「レンケイウンテンチュウ」と表示され、パワーコンディショナの運転が再開します。

お知らせ

- 夜間など太陽光が発電しないときは、計測ユニットでのパワーコンディショナの運転停止/再開の操作はできません。

● 停電時の使い方(自立運転)

日中(太陽光発電中)に停電などで電力会社からの電力供給が停止すると、計測ユニットの状態表示ランプが橙色に点滅します。下記の操作をして、自立運転に切り替えると、太陽光発電された電力を停電用コンセントから使用することができます。

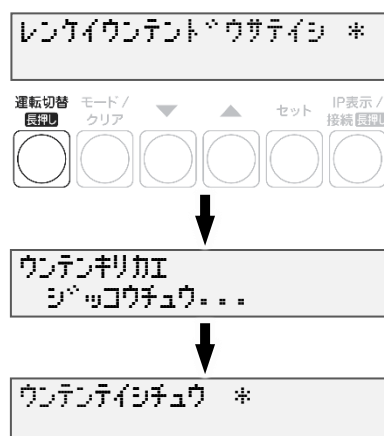
- 夜間など太陽電池が発電していないときは、計測ユニットのすべての表示が消灯し、自立運転への切り替えはできません。

1 太陽光発電用ブレーカをオフにする



2 計測ユニットの運転切替ボタンを 2秒以上押し続ける

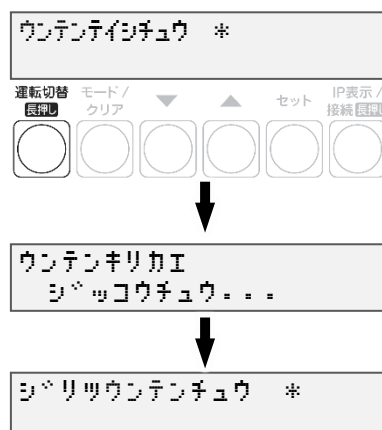
- パワーコンディショナの運転が停止します。



パワーコンディショナを操作する(つづき)

3 計測ユニットの運転切替ボタンを 2秒以上押し続ける

- 自立運転を開始すると、パワーコンディショナ運転ランプが橙色に点灯し、表示部に「ジリツウンテンチュウ」と表示されます。



4 停電用コンセントに、使用したい機器を接続する

- 突然停止しても安全性に問題がない機器を接続してください。下記の機器は停電用コンセントに接続しないでください。
 - すべての医療機器
 - 灯油やガスを用いる冷暖房機器
 - パソコン、ワープロなどの情報機器
 - その他、途中で止まると生命や財産に損害を及ぼす機器
- 接続する機器の合計消費電力は、1500VA 以下 (AC 100V で最大15A 以下) になるようにしてください。
- ▼ / ▲ボタンを押すと、表示部が電力表示に切り替わり、停電用コンセントに接続した機器の消費電力の値が表示されます。(何も接続していない場合は“0.0”が表示されます)

■ 自立運転が停止してしまったら

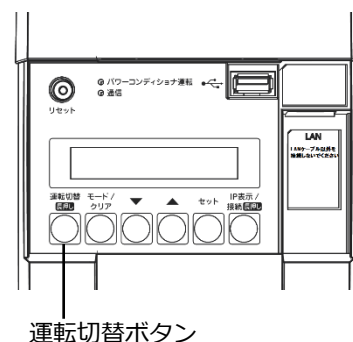
パワーコンディショナは、天候の変化によって太陽電池の発電電力が低下したときや日の入り時に、自動的に自立運転を停止します。自立運転を再開させる場合は、計測ユニットの状態表示ランプが橙色に点滅してから、「停電時の使い方(自立運転)」(P.62~63)の手順2~3を行ってください。

- 夜間など太陽電池が発電していないときは、計測ユニットのすべての表示が消灯し、自立運転を再開させることはできません。

お知らせ

- 自立運転を停止させるには、計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続けてください。もう一度運転切替ボタンを2秒以上押し続けると、自立運転を再開します。
- 掃除機や冷蔵庫など、電流が急激に流れる機器を使用すると、保護機能が働いてパワーコンディショナが停止する場合があります。保護機能が働いて自立運転が停止した場合は、以下の手順で再開してください。

- 1 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける
 - パワーコンディショナが運転を停止します。
- 2 停電用コンセントに接続している機器を減らす
- 3 計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押し続ける
 - パワーコンディショナが運転を再開します。



運転切替ボタン

パワーコンディショナを操作する(つづき)

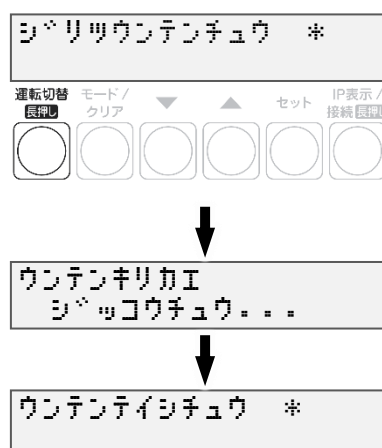
● 復電時の操作(自立運転 → 連系運転)

停電時に自立運転に切り替えた場合、復電後は連系運転に切り替える必要があります。

- 連系運転に切り替える際、停電用コンセントに接続している機器は外してください。
- 夜間に復電した場合は、手順2のみを行ってください。翌朝、連系運転モードで運転を開始します。
- 計測ユニットの表示部に「ジリツウンテンチュウ」と表示されている時に、操作を行ってください。

1 計測ユニットの運転切替ボタンを 2秒以上押し続ける

- パワーコンディショナの運転が停止します。

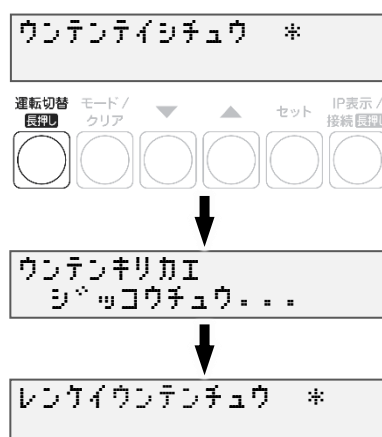


2 太陽光ブレーカをオンにする



3 計測ユニットの運転切替ボタンを 2秒以上押し続ける

- 連系運転を開始すると、パワーコンディショナ運転ランプが緑色点灯し、表示部に「レンケイウンテンチュウ」と表示されます。



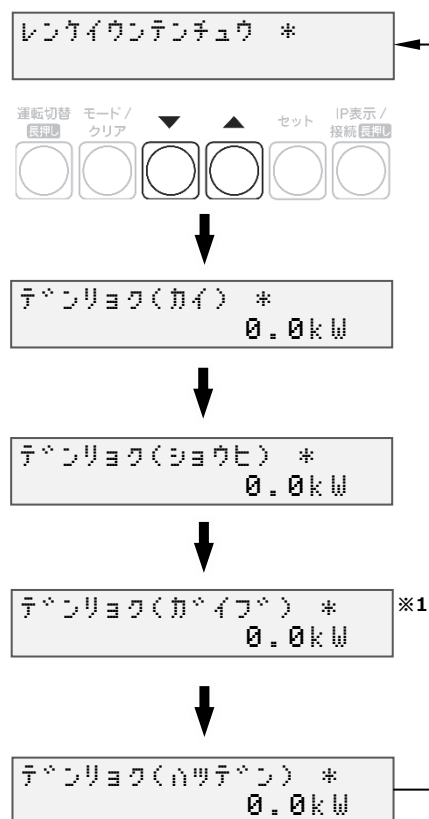
瞬時値確認を実施する

計測ユニットを操作して、現在のシステムの発電量を確認できます。

1 計測ユニットの表示部に「レンケイウンテンチュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している状態で、▼/▲ボタンを押して、瞬時値を確認する。

- 計測ユニットの表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させ、運転状態を表示させてから、▼/▲ボタンを操作してください。

※1 初期設定で「ガイブハツデン >アリ」で設定した場合に表示されます。ナシの場合には、該当の項目は表示されません。



有線接続の設定

計測ユニットとルータ間は、LAN ケーブルで有線接続することも可能です。電波強度が低いことが原因で、W-Fi ルータ(固定回線用)、もしくは 3G ルータ(3G 回線セット)と計測ユニットとの間の無線通信が行えない場合は、以下の手順で有線接続してください。

無線接続で使用する場合や接続方法が分からない場合は、設定を行わないでください。

●計測ユニットの設定を変更する

計測ユニット-ルータ間の通信を「無線接続(STA モード)」から「有線接続(AP モード)」に変更します。

- 1 計測ユニットの表示部に「レンケイウンテンチュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している状態で、計測ユニットのモード/クリアボタンと IP 表示/接続ボタンを同時に2秒以上押し続ける



- 2 「ムセンモードキリカエ >STA」が表示されている状態で、▼/▲ボタンを押して、「AP」を選択しセットボタンを押す



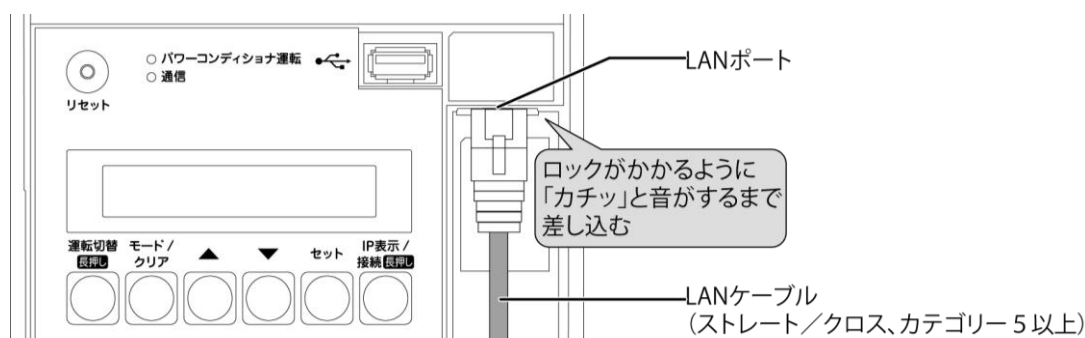
- 3 「ムセンモードキリカエ AP >ジッコウシマスカ? No」が表示されている状態で、▼/▲ボタンを押して、「Yes」を選択しセットボタンを押す



●LAN ケーブルを配線する

- 1 計測ユニットにLANケーブルをつなぐ

- LAN ポートに接続してください。



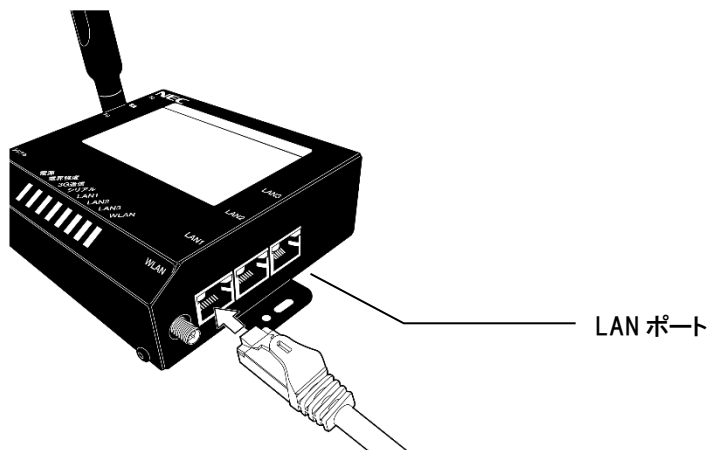
- LAN ポートに PCS 間通信ケーブル (別売) を接続しないでください。

有線接続の設定 (つづき)

2 ルーターにLANケーブルをつなぐ

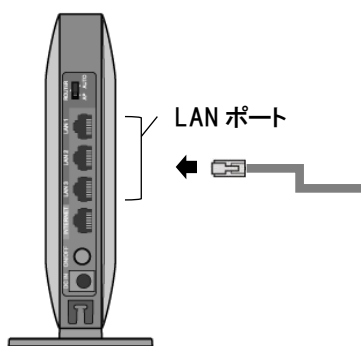
(3G回線セットの場合)

- 3G ルーター側面の LAN ポートに接続してください。
LAN 1 ~ 3 いずれかに接続してください。



(固定回線用の場合)

- Wi-Fi ルーター背面の LAN ポートに接続してください。
LAN 1 ~ 3 いずれかに接続してください。



無線接続の設定（固定回線用）

出荷時には、計測ユニットと Wi-Fi ルータ間で無線通信を行うよう設定しております。
お客様にて Wi-Fi ルータの交換、Wi-Fi ルータの無線接続の設定変更をされた場合には、再度無線接続の設定が必要となります。

その際は、以下の手順で無線接続設定を行ってください。

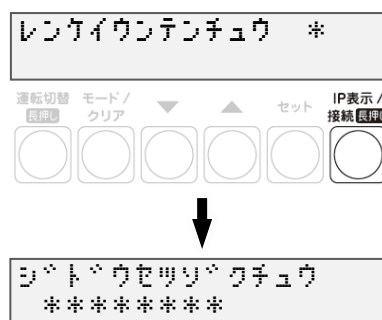
接続方法が分からない場合には、設定を行わないでください。

●かんたん無線接続設定を行う

計測ユニット - Wi-Fi ルータ間の無線接続設定を行います。

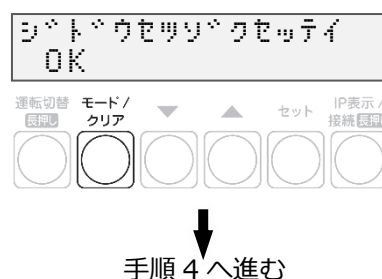
1 Wi-Fi ルータのワイヤレスランプが点滅するまで(約1秒間) AOSSボタンを押す

2 計測ユニットのIP表示/接続ボタンを、 表示部に「ジドウセツゾクチュウ」 と表示されるまで押し続ける

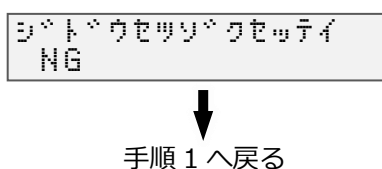


3 接続設定がOKであることを確認する

- OK を確認後、モードボタンを 1 回押して、メイン画面に戻ってください。



- 接続設定が失敗した場合、NG が表示されます。モード/クリアボタンを押して、手順 1 から再度設定してください。



4 疎通確認を実施する (P.60~61)

保守

パワーコンディショナを交換・追加する

パワーコンディショナを交換・追加する場合は、新たにパワーコンディショナを登録する必要があります。

- パワーコンディショナは最大6台まで登録できます。

1 交換・追加するパワーコンディショナのユニット No.を設定する

パワーコンディショナを交換・追加する場合は、新たに設置するパワーコンディショナのユニットNo.を設定します。

■ 交換する場合

パワーコンディショナを交換する場合は、交換前のパワーコンディショナと同じユニットNo.を、新たに設置するパワーコンディショナへ設定して下さい。

(例) 3台のシステム構成で2台目を交換する場合

接続台数	ユニットNo.	
	交換前	交換後
パワーコンディショナ1台目	1	1
パワーコンディショナ2台目	2	2
パワーコンディショナ3台目	3	3

交換前のパワーコンディショナと同じユニットNo.を設定する

■ 追加する場合

パワーコンディショナを新たに追加する場合は、新たなユニットNo.を追加設置するパワーコンディショナへ設定して下さい。

(例) 3台のシステム構成で4台目を追加する場合

接続台数	ユニットNo.	
	交換前	交換後
パワーコンディショナ1台目	1	1
パワーコンディショナ2台目	2	2
パワーコンディショナ3台目	3	3
(追加) パワーコンディショナ4台目	-	4

新たなユニットNo.を設定する

2 パワーコンディショナの終端抵抗を設定する。

パワーコンディショナを複数台接続する場合は、終端抵抗の設定が必要になります。

(パワーコンディショナが1台の場合は終端抵抗の設定は必要ありません)

詳しくは、P.28を参照ください。

パワーコンディショナの施工マニュアルも併せてお読みください。

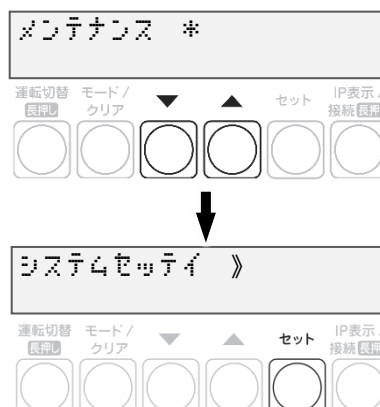
3 計測ユニットの表示部に「レンケイウンテンチュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している状態で、モードボタンとセットボタンを同時に長押しする



- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。

パワーコンディショナを交換・追加する(つづき)

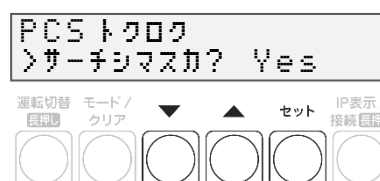
- 4 ▼ / ▲ボタンで「システムセッテイ」を選び、
セットボタンを押す



- 5 「PCSトウロク」が表示されている状態で、
セットボタンを押す

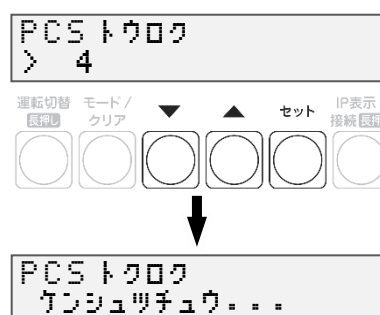


- 6 ▼ / ▲ボタンで「Yes」を選び、
セットボタンを押す



- 7 ▼ / ▲ボタンで登録台数を選び、
セットボタンを押す

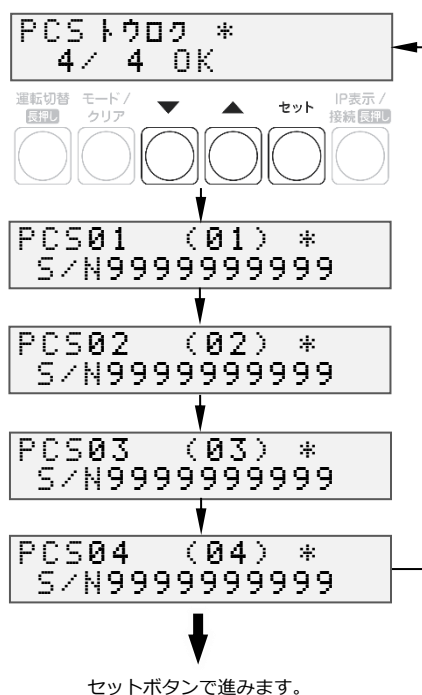
- パワーコンディショナの交換をおこなった場合
既存の登録台数のまま、自動検出をおこなってください。
- パワーコンディショナの追加をおこなった場合
既存の登録台数に新たに設置する台数を足した台数で
自動検出をおこなってください。



パワーコンディショナを交換・追加する(つづき)

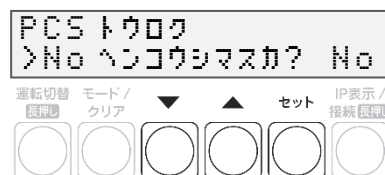
8 パワーコンディショナが自動検出され、OKと表示されれば、セットボタンを押す

- 自動検索後、「検出台数 / 登録台数」が表示され、OKと表示されることを確認してください。NGと表示された場合は、P.49をお読みください。
- 検出完了後、▼ / ▲ボタンで検索されたパワーコンディショナのシリアル Noを確認できます。

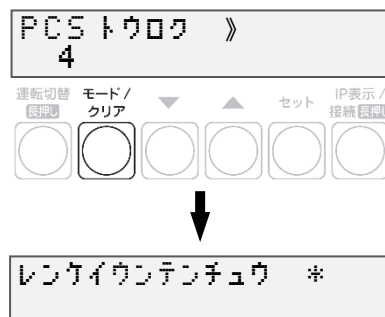


9 ▼ / ▲ボタンで「No」を選び、セットボタンを押す。

- 本機能は使用しません。



10 パワーコンディショナの登録台数が正しいことを確認し、モードボタンを2回押す



電流センサ、ケーブルを交換する

- 1 パワーコンディショナの運転スイッチをオフにする
- 2 計測ユニット用ブレーカをオフにする
- 3 計測ユニットのフロントカバーを取り外す
- 4 (隠ぺい配線の場合)
計測ユニット配線口のパテを取り外す
(露出配線の場合)
配線ケーブルを固定している結束バンドを取り外す
- 5 交換する電流センサ、ケーブルを設置、配線する
- 6 計測ユニット用ブレーカをオンにする

- 計測ユニットが起動します。

- 7 計測ユニットの表示部に
「レンケイウンテンチュウ」、
もしくは「デンリョク」が表示している状態で、
モード/クリアボタンとセットボタンを
同時に長押しする

- 表示部が消灯している場合は、いずれかのボタンを押して表示部を点灯させてください。

- 8 「メンテナンス *」が表示されている状態で、
▼ / ▲ボタンで「システムセッテイ」を選び、
セットボタンを押す



電流センサ、ケーブルを交換する(つづき)

●主幹用電流センサ、ケーブルの交換

主幹用電流センサ、ケーブルを交換しない場合は、「●外部発電機用電流センサ、ケーブルの交換」(P.73)に進んでください。

- ▼ / ▲ボタンで「シュカンセンサ 》 ホウコウカクニン」を選び、セットボタンを押す



2 U相/W相に電流を流す

- 主幹計測用電流センサの方向の確認を開始する前に、U相側、W相側のコンセントにそれぞれ150W以上の電化製品(掃除機、ドライヤーなど)を接続し、運転させてください。
※手順5終了後は、運転を停止してください。

- 「シュカンケイソクセンサセッテイ* U:セイ W:セイ」と表示されていることを確認して、▼ / ▲ボタンを押す



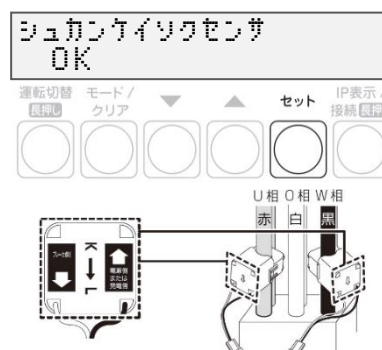
- 「ケイトウデンリョク OK」と表示され、U相、W相共に「+150W」以上になっていることを確認して、セットボタンを押す



- 正の値で150W未満の数値が出ている場合は、U相側、W相側のコンセントに電化製品を追加してください。

- 「シュカンケイソクセンサ OK」と表示されていることを確認して、セットボタンを押す

- 「ギャクセツゾク」と表示された場合は、主幹用電流センサの設置方向が間違っています。設置方向を確認(P.32~33)してください。「ギャクセツゾク」と表示された状態でモード/クリアボタンを1回押すと、手順3に戻りますので、再度設定を行ってください。



●外部発電機用電流センサ、ケーブルの交換

外部発電機用電流センサ、ケーブルを交換しない場合は、「●電流センサ、ケーブルの交換を終了する」(P.74)に進んでください。

- ▼ / ▲ボタンで「ガイクセンサ 》 ホウコウカクニン」を選び、セットボタンを押す



電流センサ、ケーブルを交換する(つづき)

2 電流センサ方向確認の為、外部発電機を運転させ、U相/W相に電流を流す

- 外部発電機（エコウィル、エネファームなど）の運転スイッチをオンにして、発電状態にしてください。
- U相側、W相側のコンセントにそれぞれ150W以上の電化製品（掃除機、ドライヤーなど）を接続し、運転させてください。

※手順5終了後は、電化製品、外部発電機の運転を停止してください。

3 「ガイブセンサセッテイ ＊

U:セイ W:セイ」と表示されていることを確認して、▼ / ▲ボタンを押す



4 「ガイブハツデン OK」と表示され、

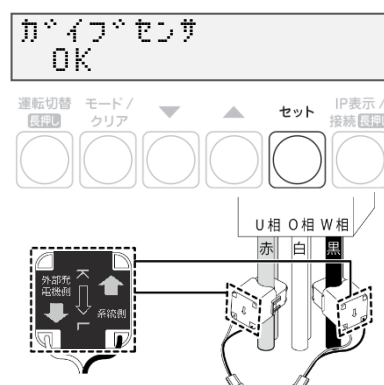
U相、W相共に「+150W」以上になっていることを確認して、セットボタンを押す



- 正の値で150W未満の数値が出ている場合は、U相側、W相側のコンセントに電化製品を追加してください。

5 「ガイブセンサ OK」と表示されていることを確認して、セットボタンを押す

- 「ギャクセツゾク」と表示された場合は、外部発電機用電流センサの設置方向が間違っています。設置方向を確認(外部発電機用電流センサ(別売)の設置、P.34~35)してください。モード/クリアボタンを1回押すと、手順3に戻りますので、再度設定を行ってください。



●電流センサ、ケーブルの交換を終了する

1 (隠ぺい配線の場合)

計測ユニットの配線口をパテ埋めする(P.38)

(露出配線の場合)

配線ケーブルを結束バンドで結束バンド差し込み口に固定する(P.38)

2 計測ユニットのフロントカバーを取り付ける(P.39)

3 パワーコンディショナの運転スイッチをオンにする

計測ユニットを交換する

固定回線用の計測ユニットを交換する際には、お客様にて LAN ケーブルのご準備をお願いいたします。
交換する際、一時的に Wi-Fi ルータと計測ユニットを LAN ケーブルでつないだ状態で設定を行います。

● 既設の計測ユニットを取り外す

1 パワーコンディショナの運転スイッチをオフにする

2 計測ユニット用ブレーカをオフにする

- 計測ユニットが停止します。

3 計測ユニットのフロントカバーを取り外す(P.25)

4 (隠ぺい配線の場合)

計測ユニットの配線口のパテを取り外す

(露出配線の場合)

配線ケーブルを固定している結束バンドを取り外す

5 計測ユニットからすべてのケーブルを取り外す

- ブレーカ側、パワーコンディショナ側、ルータ側の配線は外さないでください。
- 計測ユニットの端子台には、透明なプラスチック端子カバーがついております。取り外しの上、作業を実施してください。また、施工完了後は必ず端子カバーを付けてください。

6 計測ユニットを壁から取り外す

計測ユニットを交換する(つづき)

●新しい計測ユニットを取り付ける

1 計測ユニットを設置する(P.24～26)

2 計測ユニットに配線する(P.26、29～37)

- 計測ユニットの端子台には、透明なプラスチック端子カバーがついております。取り外しの上、作業を実施してください。また、施工完了後は必ず端子カバーを付けてください。

3 計測ユニット用ブレーカをオンにする

- 計測ユニットが起動します。

4 購入セットに応じて、以下のページの手順に進む

- 固定回線用 ➡P.77～80
- 3G回線セット ➡P.80

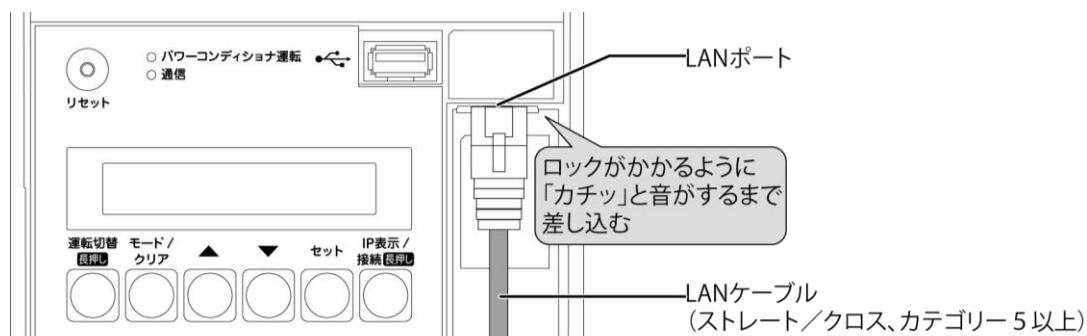
計測ユニットを交換する(つづき)

固定回線用の場合

● Wi-Fi ルータと有線接続し、計測ユニットの初期設定を行う

1 計測ユニットにLANケーブルをつなぐ

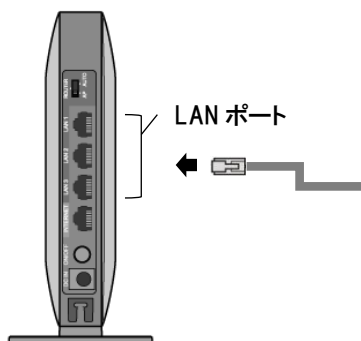
- LAN ポートに接続してください。



- LAN ポートに PCS 間通信ケーブル (別売) を接続しないでください。

2 ルータにLAN ケーブルをつなぐ

Wi-Fi ルータ背面の LAN ポート(LAN 1 ~ 3 いずれか)に接続してください。



3 計測ユニットの初期設定を行う

- 「初期設定」(P.47~55)を実施する。

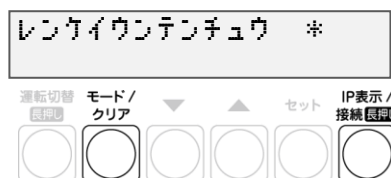
4 初期設定完了後、LANケーブルを取り外す

計測ユニットを交換する(つづき)

●接続設定を変更する

計測ユニット-ルータ間の通信を「有線接続(APモード)」から「無線接続(STAモード)」に変更します。

- 1 計測ユニットの表示部に「レンケイウンテンチュウ」、もしくは「デンリョク」が表示している状態で、計測ユニットのモード/クリアボタンとIP表示/接続ボタンを同時に2秒以上押し続ける



- 2 「ムセンモードキリカエ >AP」が表示されている状態で、▼/▲ボタンを押して、「STA」を選択しセットボタンを押す



- 3 「ムセンモードキリカエ STA >ジッコウシマスカ? No」が表示されている状態で、▼/▲ボタンを押して、「Yes」を選択しセットボタンを押す



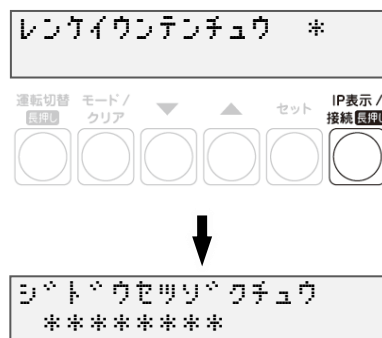
計測ユニットを交換する(つづき)

●かんたん無線接続設定を行う

計測ユニット-ルータ間の無線接続設定を行います。

- 1 Wi-Fiルータのワイヤレスランプが点滅するまで(約1秒間)
AOSSボタンを押す

- 2 計測ユニットの表示部に
「レンケイウンテンチュウ」、
もしくは「デンリョク」が表示している状態で、
表示部に「ジドウセツゾクチュウ」
と表示されるまで
IP表示/接続ボタンを押し続ける

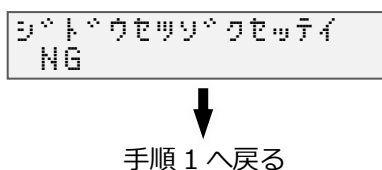


- 3 接続設定がOKであることを確認する

- OKを確認後、モードボタンを1回押して、メイン画面に戻ってください。



- 接続設定が失敗した場合、NGが表示されます。モード/クリアボタンを押して、手順1から再度設定してください。



- 4 疎通確認を実施する(P.60~61)

- 疎通確認終了後、「●計測ユニットの交換を終了する」(P.80)に進んでください。

計測ユニットを交換する(つづき)

●計測ユニットの交換を終了する

- 1 (隠ぺい配線の場合)
計測ユニットの配線口にパテ埋めする(P.38)
(露出配線の場合)
配線ケーブルを結束バンドで結束バンド差し込み口に固定する(P.38)
- 2 フロントカバーを取り付ける(P.39)
- 3 パワーコンディショナの運転スイッチをオンにする

3G 回線セットの場合

●計測ユニットの初期設定を行い、交換を終了する

- 1 計測ユニットの初期設定を行う(P.47～55)
- 2 疎通確認を実施する(P.60～61)
- 3 (隠ぺい配線の場合)
計測ユニットの配線口にパテ埋めする(P.38)
(露出配線の場合)
配線ケーブルを結束バンドで結束バンド差し込み口に固定する(P.38)
- 4 フロントカバーを取り付ける(P.39)
- 5 パワーコンディショナの運転スイッチをオンにする

ルータを交換する

●既設のルータを取り外す

- 1 計測ユニット用ブレーカをオフにする
- 2 ACアダプタのプラグをコンセントから抜き、ルータを取り外す

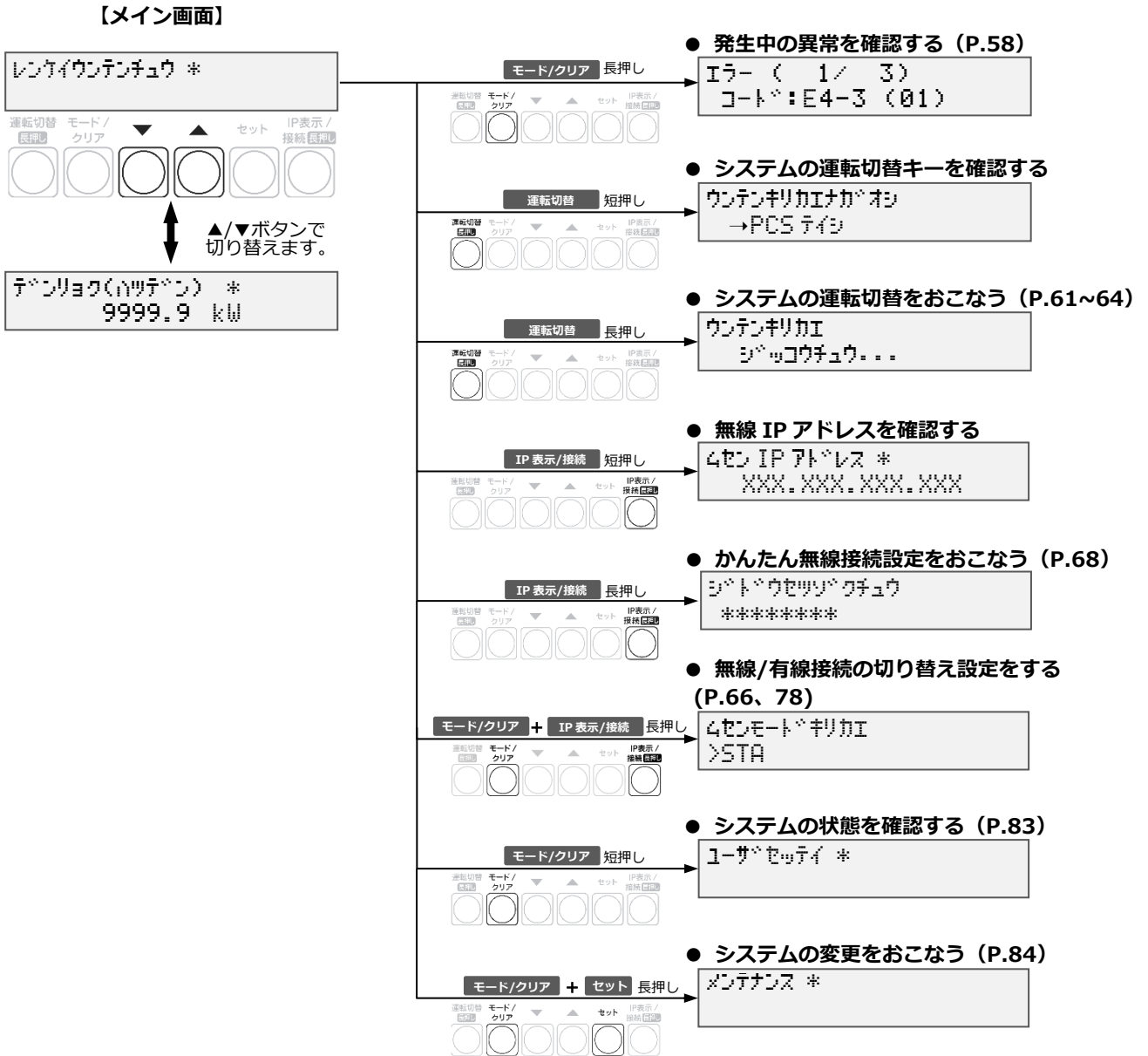
●新しいルータを取り付ける

- 1 ルータを設置する (P.40～43)
- 2 計測ユニット用ブレーカをオンにする
- 3 (固定回線用の場合)
「無線接続の設定(固定回線用)」(P.68)を実施する
(3G回線セットの場合)
疎通確認を実施する (P.60～61)

その他

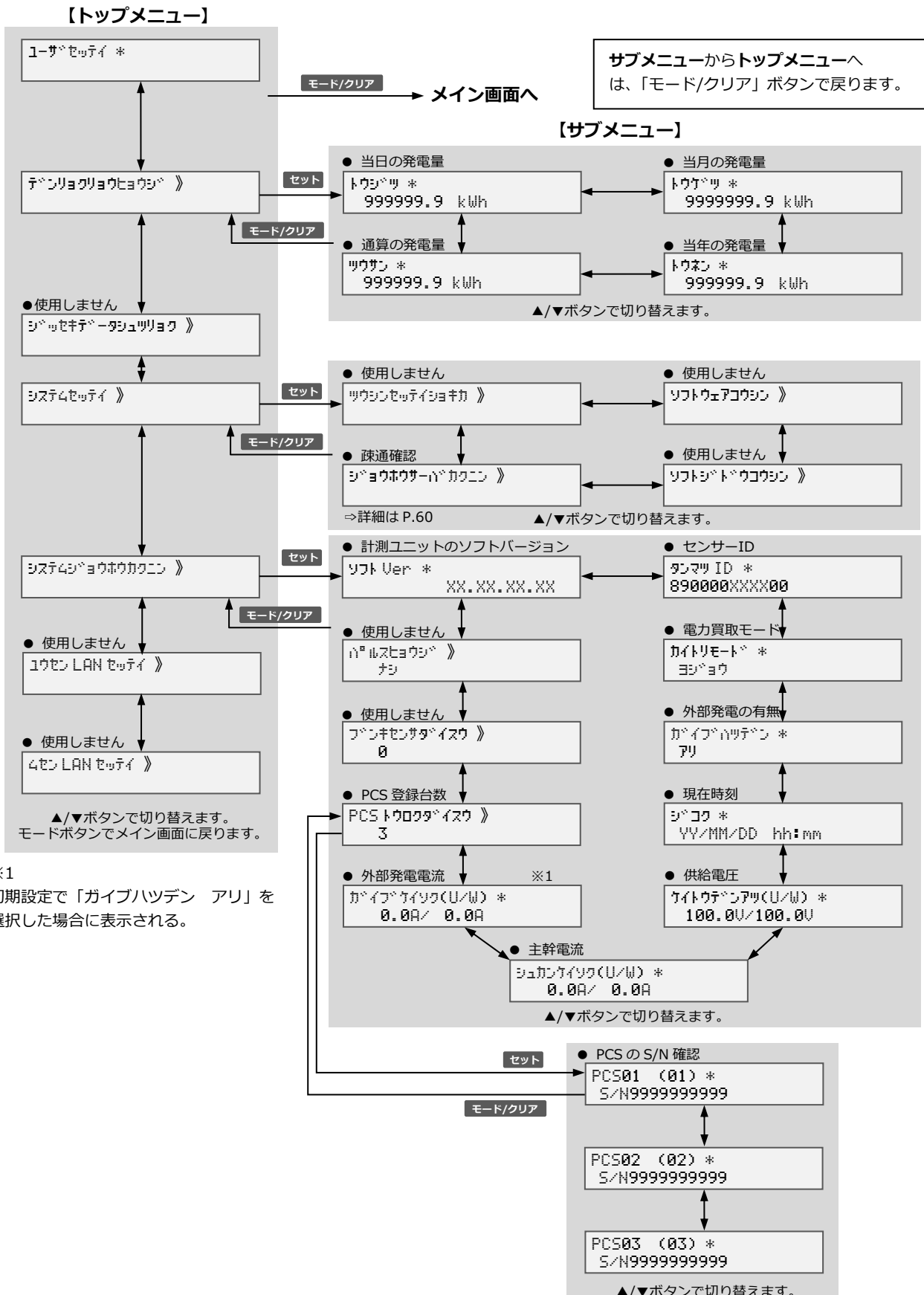
メニュー遷移

メニュー遷移図



メニュー遷移(つづき)

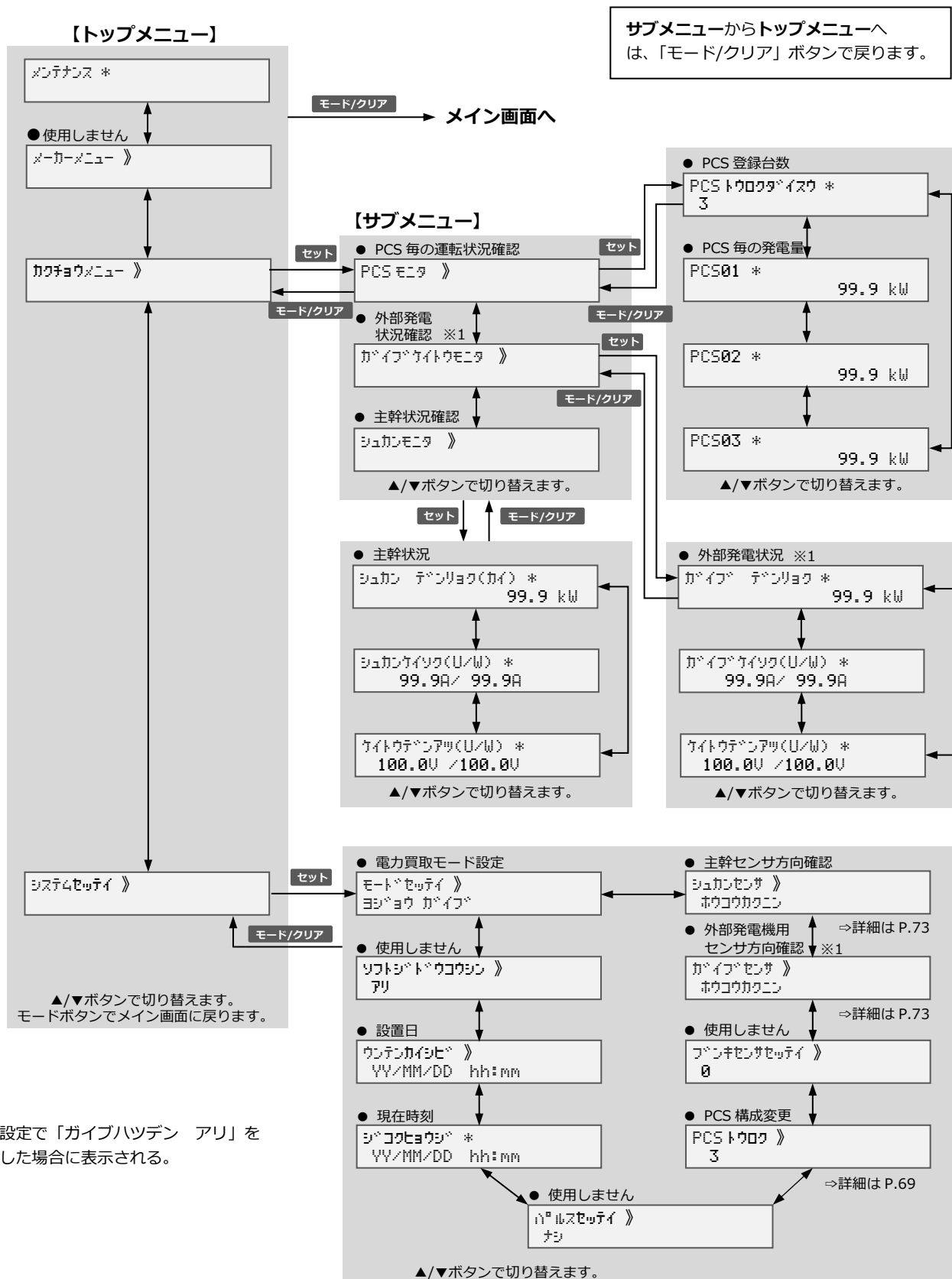
ユーザ設定 メニュー遷移図



※1
初期設定で「カイブハツデン アリ」を選択した場合に表示される。

メニュー遷移(つづき)

メンテナンス メニュー遷移図



※1
初期設定で「ケーブルハッデン アリ」を選択した場合に表示される。

エラーコード一覧

パワーコンディショナに関するエラーコード

- 発生したエラーに対する処置については、各パワーコンディショナの取扱説明書をご確認ください。

エラーコード	エラー内容	事象
A1-5	自立運転過負荷状態	自立運転中に電気の使いすぎ、または使用中の電気製品の故障を検出しています。
A2-7	内部ファン異常	パワーコンディショナ本体に異常が発生しています。
E1-1	交流過電圧検出	商用系統の電圧が上昇しました。
E1-2	交流不足電圧検出	商用系統の電圧が低下しました。
E1-3	周波数上昇検出	商用系統の周波数が上昇しました。
E1-4	周波数低下検出	商用系統の周波数が低下しました。
E1-5	単独運転検出 (受動的方式)	商用系統の周波数に異常が発生し、単独運転検出(受動的方式)が働きました。
E1-6	単独運転検出 (能動的方式)	商用系統の周波数に異常が発生し、単独運転検出(能動的方式)が働きました。
E1-7	瞬時過電圧検出	商用系統の電圧が 123V 以上になっています。
E1-8	瞬時電圧低下検出	● 商用系統の電圧が 15V 以下になっています。 ● 交流側のヒューズが切れている可能性があります。
E2-1	太陽電池過電圧検出	太陽電池の電圧が高くなっています。
E2-3	直流地絡検出	太陽電池側の機器の絶縁抵抗が低下しています。
E3-1	直流過電流検出	パワーコンディショナ本体に異常が発生しています。
E3-2	交流過電流検出	
E3-3	直流分検出	
E3-4	装置温度異常	パワーコンディショナ内部が高温になっています。
E4-2	特性異常	パワーコンディショナ本体に異常が発生しています。
E4-3	出力制御異常	
E4-4	ROMバージョン異常	
E4-5	制御電源異常	
E4-6	EEPROM Sum値異常	
E4-7	EEPROM 異常	
E4-8	装置未校正	
E5-1	連系リレー動作異常 / 端子台温度異常	
E5-2	表示ハード異常	
E5-3	DC/DCコン 過電圧検出	
E5-4	DC/DCコン 不足電圧検出	
E5-5	地絡センサ断線	
E5-6	過電流検出	

エラーコード一覧(つづき)

計測ユニットに関するエラーコード

- 記載している以外エラーコードが表示された場合は、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。

エラーコード	エラー内容	事象
C1-1	時刻異常動作停止	自動復旧する可能性があります。1日に複数回発生している場合は、ルータが正常に起動していることを確認して、計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C1-2	時刻同期異常	
C1-3	パワーコンディショナ動作モード不一致	(パワーコンディショナが複数台設置されている場合のみ) いずれかの太陽光発電用ブレーカがオフになっている可能性があります。太陽光発電用ブレーカの状態を確認して、太陽光発電用ブレーカをすべてオンにしてください。その後、パワーコンディショナ本体の運転スイッチを入れ直してオンにしてください。エラーが解消されない場合は、太陽光発電用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C1-4	パワーコンディショナ台数不一致	パワーコンディショナの設置台数が設定値と一致していません。 パワーコンディショナの設置台数および通信ケーブルが正しく配線されているか確認してください。 設置台数の設定変更が必要な場合は P.69 をご確認ください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットもしくは通信ケーブルの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-1	EEPROM 異常	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-2	FLASH メモリ異常	
C2-3	FLASH メモリ寿命	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-5	Web サーバ異常	自動復旧する可能性があります。数日に渡って継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-7	動作保証期間外異常	本製品は、2038 年以降は使用できません。現在 2038 年以降でない場合は、計測ユニットを再起動し、計測ユニットの時刻が現在時刻であることを確認してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C2-8	オーバーフロー通知	発電実績データが上限値に達しました。自動復旧する可能性があります。連日発生している場合は、時刻異常の可能性がありますので、ルータが正常に起動していることを確認して、計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-1	ソフトウェア更新異常	ソフトウェア更新に失敗しました。継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-3	システム異常	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-4	無線 LAN 異常	自動復旧する可能性があります。継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-5	時計異常 (ドライバレベル)	ルータが正常に起動していることを確認して、計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。

エラーコード一覧(つづき)

エラーコード	エラー内容	事象
C3-6	設定データ不正	ソフトウェア更新に失敗しました。継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-7	ソフトウェアバージョン不正	
C3-8	ソフトウェア更新異常 (パワーコンディショナ)	パワーコンディショナのソフトウェア更新に失敗しました。継続的に発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C3-9	パワーコンディショナ ROM 異常	
C4-1	内部通信エラー (データ通信)	自動復旧する可能性があります。1日に複数回発生している場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C4-2	内部通信エラー (UI 通信)	
C4-3	内部通信エラー (起動時タイムアウト)	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C4-4	内部通信エラー (起動時異常応答)	
C5-1	系統過電圧	計測ユニットの電源電圧に異常があります。 自動復旧する可能性があります。連日発生する場合は、計測ユニットの電源ケーブルが正しく配線されているか確認してください。 問題がない場合は、計測ユニット本体の「ユーザ設定」メニューで「システム情報確認」の「系統電圧」を確認してください。 配線を修正した場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C5-2	系統過電流	主幹用電流センサの設置位置を確認してください。 設置位置を修正した場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C5-3	系統不足電圧	計測ユニットの電源電圧に異常があります。 自動復旧する可能性があります。連日発生する場合は、モバイルパックの電源ケーブルが正しく配線されているか確認してください。 問題がない場合は、計測ユニット本体の「ユーザ設定」メニューで「システム情報確認」の「系統電圧」を確認してください。 配線を修正した場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C5-4	外部発電センサ過電流	<p>▶「ガイブハッデン アリ」で設定している場合</p> <p>外部発電機用電流センサが正しく設置されているか確認してください。 また、設置状況を変更した場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p> <p>▶「ガイブハッデン ナシ」で設定している場合</p> <p>使用しない外部発電機用電流センサが設置されている可能性があります。 設置されている場合は取り外してご使用ください。 設置されていない場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにして、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。</p>
C5-5	分岐計測センサ過電流	使用しない分岐用電流センサが設置されている可能性があります。 設置されている場合は取り外してご使用ください。 分岐用電流センサが設置されていない場合は、計測ユニットを再起動してください。 エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。 計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。

エラーコード一覧(つづき)

エラーコード	エラー内容	事象
C6-1	時刻設定異常	ルータが正常に起動していることを確認して、計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C6-2	CPUシステムエラー	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C6-3	サブCPU通信エラー	
C6-4	サブCPU FLASHメモリ異常	
C6-5	WDT異常	計測部が異常状態となったため、再起動しました。継続して発生している場合には、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C6-6	運転切替エラー	計測ユニットの運転切替ボタンを2秒以上押して、パワーコンディショナの運転切替を実施してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。計測ユニット用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C6-7	サブCPU EEPROM異常	計測ユニットを再起動してください。エラーが解消されない場合は、計測ユニットの故障の可能性があります。モバイルパック主電源用ブレーカをオフにし、巻末のお問い合わせ先へ連絡してください。
C7-3	ソフト更新サーバ通信システムエラー	
C7-6	情報サーバ通信システムエラー	

販売元



NTT SMILE ENERGY

株式会社 NTT スマイルエナジー

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜1丁目1番30号 リバービュー北浜 7F

06-6221-1234

お問い合わせ support@nttse.com

施工に関する
ご質問・ご相談は…

エコめがね
サービス
ヘルプデスク

06-6221-0222

受付時間

10:00 ~ 18:00